

事業報告概要書（公表版）

1 基本情報							
施設名又はグループ名			指定管理者名及び団体概要				
防災公園グループ			（指定管理者名）公益財団法人 東京都公園協会 （団体の概要）都市緑化の推進、公園や水辺を通じた安らぎとゆとりの提供を目的として設立され、公益目的事業（指定管理者事業を含む）及び収益事業を行う。				
指定期間							
H28.4.1 ～ R8.3.31（10年間）							
2 施設名		3 収支(単位:千円)					
東白鬚公園、木場公園、砧公園、駒沢オリンピック公園、代々木公園、善福寺川緑地、和田堀公園、汐入公園、城北中央公園、光が丘公園、舎人公園、水元公園、篠崎公園、葛西臨海公園、武蔵野中央公園、府中の森公園、武蔵野の森公園、小金井公園、東村山中央公園、東大和南公園、秋留台公園				令和6年度	令和5年度	令和4年度	公園別支出額 東白鬚公園:90,973、城北中央公園:176,276、武蔵野の森公園:109,174 木場公園:304,001、光が丘公園:312,543、小金井公園:323,545 砧公園:237,156、舎人公園:432,845、東村山中央公園:82,444 駒沢オリンピック公園:244,592、水元公園:427,189、東大和南公園:97,240 代々木公園:329,718、篠崎公園:176,818、秋留台公園:89,940 善福寺川緑地:175,240、葛西臨海公園:417,494、 和田堀公園:125,709、武蔵野中央公園:76,103、 汐入公園:76,384、府中の森公園:148,696
		項目		金額	金額	金額	
		収入 計		4,403,789	4,211,834	4,007,307	
		内訳	指定管理料	4,403,789	4,211,834	4,007,307	
			利用料金		0	0	
			その他収入		0	0	
		支出 計		4,454,080	4,180,460	3,971,073	
		収支差		△50,291	31,374	36,234	
4 管理運営の概要							
今年度、防災グループ全公園において「インクルーシブ防災」をテーマに掲げ、防災グループ横断イベントとして動画放映やワークショップを実施し、震災を自分事として捉え備えるための情報発信を行った。さらに、職員の防災介助士資格取得や防災普及啓発イベント、地域連携防災訓練を実施。近隣町会に加え、障がい者施設・高齢者施設・病院など、公園の地域特性を活かした訓練を行い、公園を核とした地域一帯の防災対応力向上に努めた。また、専門ノウハウを持つ企業・団体とも連携し、公園と地域の結びつきを強めながら、地域の支え合いを促進した。							
5 管理状況							
①維持管理							
・今年度より樹木点検アプリを導入し樹木定期点検を実施。アプリの導入で、紙媒体での点検・データ入力の手間が省け、GPSによる位置情報を記録、異常等もリアルタイムで樹木医が閲覧できるようになり、点検時間の効率化と樹木医による早期診断ができるようになった。 ・砧公園では、車椅子でも花壇管理のできるレイズドベッドを新設し、誰もが花育体験ができる環境を整えた。 ・光が丘公園では、テニスコート受付に日除けを新設し、新システムのスマホ操作も快適になり、感謝の声をいただいた。 ・善福寺川緑地では、公園連絡協議会にて冠水情報を受けて排水柵設置や不陸を解消し、誰もが訪れやすい環境に整備した。 ・木場公園では、健康遊具の安全基準改定に伴う対応や、新技術による土砂流出防止などで来園者の安全を確保した。 ・舎人公園では、駐車場照明11灯を点検・交換し、省エネと安全性の向上を図った。 ・水元公園では、QGISを活用してボブラの位置や記録を集積し、維持管理の効率化と適切な保全基盤を確立した。 ・葛西臨海公園では、鳥類園ウォチングセンター外壁の耐塩塗装やレクチャールームの床を張替え、施設の長寿命化を図った。 ・武蔵野中央公園では、漏水対応と今後を見据えた止水弁増設を実施。 ・武蔵野の森公園では、新規花壇「絵本と歌と庭」を整備し、のびのび親子館と連携イベントを開催することで生き物を育むプロセスに直接触れる仕組み作りを行い子育て支援に寄与した。 ・小金井公園では、「見えない貯水池」の浸透柵全95基を丁寧に清掃し、激甚化する豪雨災害に備えました。 ・東大和南公園では、テニスコート沈下の早期復旧と窓口での利用調整に迅速に対応しクレームや事故を防いだ。 ・秋留台公園では、クビアカツヤカミキリ防除の取り組みを継続することで被害本数を減少することができた。							
②利用者への対応							
・ドッグラン登録のWEB化を開始し、手続きの簡略化と利用者の利便性向上を実現した。 ・駒沢オリンピック公園では、SS広場の巡回を5倍に強化、警備員の配置などにより、スケートボードのマナー改善につなげた。 ・城北中央公園では、特別連絡協議会等で子育て支援団体へ呼掛け、イベント参加につなげて潜在的ニーズを引き出した。 ・和田堀公園では、区と連携した犬のマナーアップ教室を開催し、マナーアップや新規開設のドッグランの利用促進につなげた。 ・木場公園では、警察や区と連携した駐輪対策を行い、区道へのはみだし駐輪をゼロとした。 ・汐入公園では花火大会開催時、警察との連携で滞留防止策や大階段を閉鎖し、事故ゼロで来園者の安全を確保した。 ・舎人公園では、自然観察園に車いすや子どもでも利用できる観察窓を新設し、利便性を向上。利用者ニーズに応えた。 ・篠崎公園は住宅地に隣接地では、年間を通じて剪定や落葉清掃等の要望に迅速に対応し、信頼関係を築いた。 ・葛西臨海公園では大型連休の前に、近隣施設や都区、所轄警察署や消防署などと公園連絡協議会を開催し、救急対応や交通渋滞対策等について共有し、近隣施設が一体となって利用者サービスに努めた。 ・武蔵野中央公園では、熱中症対策としてミストシャワーをエリア拡大して設置した。 ・府中の森公園では、利用者ニーズを捉え、売店前の花壇を車いすでも入れるようにしたほか、椅子テーブルを新たに設置し見る花壇から使う花壇になり利用者のくつろぎ空間が拡充した。 ・小金井公園では、スポーツ施設とドッグラン利用のデジタル化に合わせ、不慣れな利用者へ操作方法を丁寧に案内しデジタル格差を解消しました。 ・東村山中央公園では、利用者ニーズに応える管理ヤードの活用として、犬のノーリード利用や子ども向けイベントスペースとして有効活用した。 ・秋留台公園では、地域と取り組む継続的な地域連携防災訓練評価され東京消防庁表彰を授与した。							

6 利用者アンケート結果					
実施方法：公園内で調査票を配布・回収／QRコード掲示によるWEBアンケート					
施設名	総合 満足度	植栽 管理	施設の 清潔さ	安全 ・安心	職員の 応対
東白鬚公園	4.5	4.5	4.2	4.4	4.5
木場公園	4.7	4.7	4.1	4.4	4.6
砧公園	4.9	4.9	4.7	4.9	4.9
駒沢オリンピック公園	4.6	4.4	3.9	4.3	4.3
代々木公園	4.7	4.7	4.0	4.4	4.4
善福寺川緑地	4.7	4.7	4.6	4.6	4.7
和田堀公園	4.7	4.7	4.6	4.6	4.8
汐入公園	4.8	4.5	4.1	4.5	4.7
城北中央公園	4.9	4.9	4.9	4.9	4.8
光が丘公園	4.6	4.5	4.0	4.2	4.4
舎人公園	4.6	4.4	4.3	4.3	4.5
水元公園	4.8	4.7	4.3	4.5	4.6
篠崎公園	4.5	4.4	3.8	4.2	4.4
葛西臨海公園	4.9	5.0	4.8	4.9	4.9
武蔵野中央公園	4.7	4.6	4.6	4.7	4.8
府中の森公園	4.8	4.7	4.4	4.7	4.6
武蔵野の森公園	4.7	4.6	4.5	4.7	4.7
小金井公園	4.7	4.8	4.3	4.7	4.7
東村山中央公園	4.6	4.5	4.2	4.4	4.3
東大和南公園	4.5	4.4	4.4	4.4	4.4
秋留台公園	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9
7 入園者数の状況（単位：人）					
施設名	当該年度	分析			
東白鬚公園	270,855	パークミーティングを契機に、環境教育や防災見学会等、新たな取組を開始し、地域交流の機会を充実させた。			
木場公園	2,082,474	地域連携イベント「KIBAFESTA2024」の開催とビデオ制作により、地域と公園の魅力を広く発信し、公園利用につなげた。			
砧公園	1,290,985	公園連絡協議会にて地域の要望を把握し、「防災扉の開放」により安全な公園管理に貢献し、利用者ニーズに応えた。			
駒沢オリンピック公園	2,930,000	地域と一体となり、開園60周年を祝う「駒沢ファンタジア」で公園への愛着を醸成し、利用促進につなげた。			
代々木公園	6,051,988	東京パークガーデンアワードと連携したジャズイベントの開催など公園の特性等を活かしたイベントを提供した。			
善福寺川緑地	1,964,737	枯枝処理など安全管理を徹底し、サクラの景観を維持したほか、排水柵を改善したことにより、だれもが訪れやすい公園利用を促進した。			
和田堀公園	1,259,254	埋土種子からコウホネを池へ植戻し復活させ、観察会で生物多様性保全の普及啓発に貢献し、公園の魅力を発信した。			
汐入公園	1,954,650	特に来園者が多い花火大会開催時には、SNSの注意事項が混乱を防ぎ、園路滞留防止策が奏功し、安全な公園利用につなげた。			
城北中央公園	1,550,439	オータムフェスタや古代フェスティバルなど幅広い世代が楽しめるイベントを開催し、公園利用につなげた。			
光が丘公園	1,957,054	公園フェスタや感謝祭など地域の団体や企業と連携した大型イベントを開催し、地域の活性化につなげた。			
舎人公園	4,897,307	企業や地域と連携した公園フェスタや防災フェスタを開催し、新たなプログラムを充実させることでさらなる公園利用の促進に努めた。			
水元公園	2,106,708	ハナショウブの管理精度向上やQGISを活用したボブラ並木の維持管理を通じて豊かな自然環境を提供し、公園利用につなげた。			
篠崎公園	1,316,679	アジサイ等の多彩なワークショップを展開し、地域の子どもの興味を引き出し、学びと体験の機会を充実させた。			
葛西臨海公園	3,840,605	鳥類園開園30周年記念イベントを開催。展示室をリニューアルし、生態展示や鳥類の剥製、ハンズオン展示等の充実を図った。			
武蔵野中央公園	550,991	パークミーティングでの意見を受け一般来園者や子どもに参加してもらう防災施設の点検を年4回行うなど、地域ニーズに応えた。			
府中の森公園	812,667	遊具広場のアプリを活用したイベントを企画し、施設の利用促進に寄与。アプリ閲覧数も増やし満足度向上に努めた。			
武蔵野の森公園	624,071	公園フェスタでは八王子車人形や和太鼓の競演、国立天文台との初連携を行い地域の文化・伝統を伝承し、賑わいを創出した。			
小金井公園	3,203,040	ボランティアとともにSL展示場の整備や初めてのイベントを行い小金井公園のポテンシャルを開花させ、公園利用を活性化させた。			
東村山中央公園	601,380	都との調整を何度も重ね、管理ヤードの特性を生かした活用や、子ども向けのイベントを開催し、住民要望を叶え、公園利用につなげた。			
東大和南公園	977,243	パークミーティングで課題を共有し、ゴミ不法投棄の撲滅やキッズコミュニティ拡充を行い、地域と公園を繋ぐ取組を推進した。			
秋留台公園	714,759	競技場の改修工事に伴い会場を変更してユニバーサルスポーツ祭を実施。運営にあたり実行委員会を重ね、地域住民と協議を進めた。			
計	40,957,886				



東白鬚公園

地域連携を牽引し、
コミュニティを支える公園



所在地：墨田区／開園面積：10.3ha

パークミーティング発！新たな挑戦

防災
事業

NEW 『パークミーティング』の立ち上げ

メンバーや関係者との調整に苦労しながらも、コミュニケーションを重ね、信頼関係を築き、今回初めての開催が実現した。**パークミーティングを契機に連携が生まれ、子どもたち向けの環境教育活動など新たな取り組みがスタートし、地域活性化に寄与した。**



メンバー：3未就学施設、8自治会、墨田区防災課、向島消防署

子ども達と一緒に取り組める内容を協議

NEW 自然と触れ合う子ども環境教育始動

子ども向け生物多様性イベントへの要望に応え、「**カブトムシ生育サポート**」や「**バグハウス**」の設置をスタートさせ、自然との触れ合いの機会を提供。保育士や子ども達から感謝と感動の声をいただいた。**環境意識向上や探求心の育成に貢献した。**



子ども達と昆虫の様子を見守る

NEW 子ども達の命を守るために

保育園からの防災施設への関心に応え、保育士向けに防災施設見学会を初開催。保育士からは「**保育園の震災時対応マニュアルを見直していく。**」との声が寄せられ、**見学会の有益性**が示された。さらに、防災パンフレットの追加要請があり、保護者にも紹介され、地域全体の防災対応の向上に大きく貢献した。



防災施設の説明を熱心に耳を傾ける保育士

NEW 町会の要望を反映した『防災フェスタ』

在宅避難時の不安解消の声に応え、イベント内で携帯トイレの使用方法を紹介や、全国唯一の大型VR車を誘致。また、**パークミーティングのネットワークを活用したことで、若年層や防災国地以外の参加者の獲得に成功。**災害時の具体的な対応力を身に付けていただき、地域全体の防災意識向上に努めた。



防災フェスタ来場者 1,000人超

VR車への関心度が集まる



防災とスポーツで地域とつながる

防災
事業

Update 『公園フェスタ』に防災プログラム登場

煙体験ハウスやAED体験などの**防災・救急コーナー**として初めて導入したプログラムは、多くの参加者から高評価を得た。これにより、イベント全体の満足度が向上し、参加者の防災意識の向上につながった。これらの取組が高く評価され、東京消防庁の救急部長からは、防災・救急の普及活動に対する感謝の言葉を頂いた。



子ども達がAEDの使用方法を学ぶ

NEW 定期開催！『まちかどボッチャ』

新たにボッチャを楽しめるスペースを作り、**年代を問わず気軽に体験**していたたける場を提供。地域の多世代交流の場としても機能した。区からは、コート貸与や告知、スポーツ推進委員派遣など全面的な協力をいただき、今後のスポーツイベントへの協力体制が構築され、**自治体とのスポーツ活動の関係強化**に繋がった。



気軽にできるボッチャで公園が賑やかに

防災公園の役割を海外へ発信

防災
事業

NEW 香港の防災番組制作に協力

防災団地に隣接する公園の避難場所としての役割や防災トイレの組立方法を紹介。近年の水害を受け、防災への関心が高まる中、日本の防災対策を学び、適切な対応方法を考えるきっかけとなった。また、**日本は香港人にとって主要な渡航先であり、滞在中の災害対処法も紹介し、実用的な情報を提供した。**

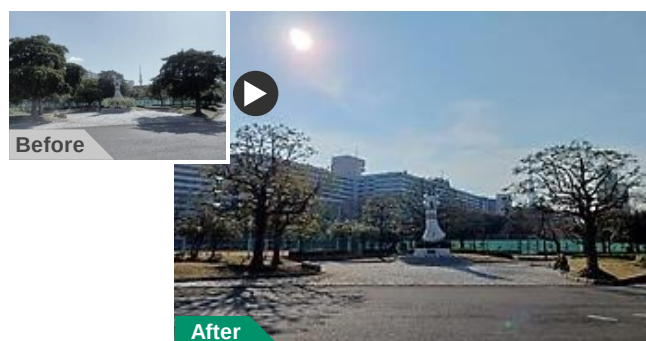


香港で活躍する俳優が防災トイレの組立に挑戦

園内全域の維持管理による景観向上と環境美化

Update パークビュースポットや団地を望む景観

まとい周辺や団地を望む景観整備のため、約1,500㎡の樹木剪定を行ったことにより、景観が美しく保たれ、公園の魅力が向上した。継続的な管理によって**園内がより快適で整備された空間となり、来園者からの評価も高まり、地域住民の利用促進につながった。**



Update 地域の方とともにクリーンアップ

地域の方やボランティアとともに、パークビュースポットを中心に草取りや清掃を毎月実施し、延べ139人の方に参加いただいた。景観が整い、訪れる人々にとって快適で魅力的な空間となった。**清掃活動により、ゴミの減少や植物の育成にも良い効果をもたらした。**





木場公園

地域の方々と共に 賑わいの場を創出する木場公園



所在地：江東区／開園面積：23.8ha

地域の企業や団体が集まり木場の魅力を発信！

Update 地域連携イベント「KIBA FESTA 2024」の開催

地域の様々な団体や企業と繋がりを深め、公園から地域の魅力や価値、伝統文化を発信することを目的とした地域連携イベント「KIBAFESTA2024」を開催。令和5年度と比較して参加団体は15団体から20団体に増え、コンテンツは13から14に増加。**イベント参加者は延べ13,482人となり前年対比42%増**となった。アンケートの満足度は89%と高く、地域の魅力発信イベントとして**着実に発展している**。



マルシェも地域のお店を中心に11店舗が出展



20団体の様々な地域企業が出展

NEW イベントPVを制作

「KIBAFESTA2024」では参加企業のご協力により**初めてプロモーションビデオを制作**。イベントの様子や出展者のインタビューを通じて、公園から地域の魅力や価値、伝統文化を広く都民に発信した。



江東区無形文化財「一閑張り」の紹介

連携事業者の専門性を活かした質の高いイベント

NEW ストリートピアノの設置と、ピアノを活かしたイベント

夏休み期間中に、クールスポットでもある木場ミドリアムの有効活用と公園で音楽を楽しむ機会を創出するため、地域企業のご協力により**ストリートピアノを期間限定で設置**。設置したピアノを有効活用するため、地域の音楽教室のご協力による**ヴァイオリン・ドラムとのアンサンブル体験や、ピアノライブを開催**。注目度が高く、当初のX（旧 Twitter）による告知は3万インプレッションを超過。**62日間設置して、延べ1,636人の方に演奏**していただいた。



ピアノとドラムのアンサンブル体験



ピアノライブは約40人が鑑賞

NEW 大手食品メーカーによる 食育セミナー

近隣の大手食品メーカーのご協力により「お好み焼きを通じた食育セミナー」を開催。お好み焼きの材料の栄養素や作り方のコツのほか、バランスよく食事をとることの大切さを251人の方に伝えた。



子どもから大人まで楽しめる食育イベント



防災フェスタの開催と、区と連携した防災意識の普及啓発

防災
事業

Update

木場公園防災フェスタ2024の開催

消防署・警察署と連携して「木場公園防災フェスタ2024」を開催。起震車体験やはしご車の試乗体験などを実施。公園は各種防災グッズを展示した「ともすけの部屋（防災展示場）」を制作。親子で楽しみながら防災を学ぶようにクイズの答えだと思えるものを「ともすけの部屋」から持ってくるミニゲームを実施。午前中の開催で延べ2,350人が参加した。



はしご車試乗体験は大人気



各種防災グッズを展示した「ともすけの部屋」

NEW

富士山噴火をテーマとした展示の実施

区と連携した総合防災訓練に出展。楽しみながら防災について学べるゲームや震災に関する展示のほか、初の取り組みとして富士山噴火の備えについて展示をした。



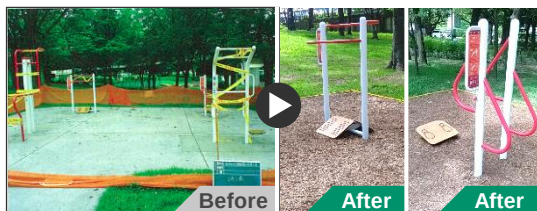
噴火による降灰に備えた服装を展示

園内の安全管理から環境配慮まで、様々な視点で取り組む維持管理

NEW

遊具広場のリニューアルオープンに伴う安全対策

健康遊具の安全基準改定があった。基準を満たすため、床面にウッドチップを敷きつめ緩衝材とした。そのほかに、法面の土砂流出防止のため、地表の草地化を早める【BSC工法】を施工。また、園路際に土留め設置、土系舗装材による不陸整正の施工、臨時駐輪場の設置、路面表示による駐輪禁止区域の明示などを4月から行い、無事故を継続。



施工前はコンクリート

固化したウッドチップ



ベンチ前への駐輪禁止を明示

NEW

園内リサイクルによる堆肥作り

パークミーティングで、園内施設が連携したリサイクルの話が出た。抽出後のコーヒー粉が良い堆肥になるため売店などに声掛けして園内で連携したリサイクル堆肥を作った。



「こどものにわ」のバイオネストで堆肥作り

マナーアップイベントの実施など、利用マナーの適正化

NEW

バスケット利用のマナーアップイベント

バスケットゴールの夜間利用において、騒音による迷惑行為があった。昨年度は夜間消灯などを行い、今年度は新たにマナーアップイベントを実施。マナーアップにより迷惑行為が解消された。



3on3ゲームの後にゴミ拾い

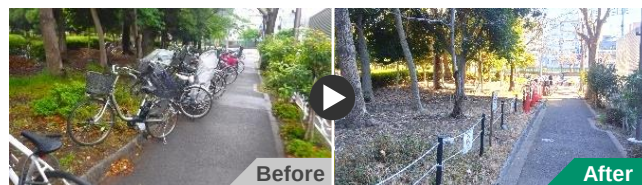


2回実施で115人が参加

NEW

駐輪場利用の適正化

公園南側は通勤通学で自転車を停める方が多く、区道にはみだしていた。駐輪場以外に停めないように柵の設置、職員による声掛け、区と連携した撤去により、区道での通行に支障は無くなった。



当初は1日70台あったはみだし駐輪も1月以降はゼロ台



砧公園

すべてのこどもと
文化を育てる公園



所在地：世田谷区／開園面積：39.17ha

地域コミュニティや企業との連携によるインクルーシブマインドの向上

Update インクルーシブイベント「スペシャルデー」、「みんなのひろば」にプレイワーカーの配置

大規模インクルーシブイベント「スペシャルデー」を11月に開催（約3,500人参加：前年比146%、うち障がい者130人）。療育体操や福祉用具体験等15団体（うち**新規7団体**）が出演・パフォーマンスし、**だれもが一緒に遊び・ワークショップに参加できる環境をつくった**。音楽パフォーマンスは会場や遊具広場を練り歩き、音楽や踊りを**楽しみながら遊具の普及啓発につなげた**。また、会場には公募ボランティア23人や**遊具広場にはプレイワーカーを配置**し、子どもたちの利用を見守るとともに「みんなのひろば」を核として、**インクルーシブマインドを地域に広げること**に大きく貢献した。



サンバや阿波踊りは、障がいのある人もない人も、ルーツや言語のちがう人、すべてのひとたちを歓迎



普段はお祭に出かけられない子どもも緑地を楽しんだ（ファストパスや介護タクシー利用で負担なく参加）



プレイワーカーによる遊びの見守りイベントをきっかけに公園の遊具を初体験！

Update ボランティアと協働したアートワークショップ

近隣の障がい者支援団体によるアートワークショップを「みんなのひろば」で年2回開催（**166人参加**）。インクルーシブな広場としての**利用促進につなげた**。また、新たに音楽療法を学ぶ学生の演奏はだれもが一緒に楽しみ、会場の心をひとつにした。



身体中に絵の具を塗って、布に色を付けていく「ぬたくり」



楽器を使って音楽療法乳幼児から大人も一緒に楽しんだ

Update 美術館との連携「こんな公園あったらいいなコンクール」

世田谷美術館および長谷川町子美術館との協力により、公園をテーマにした8回目となる絵画コンクールを3月に開催。**356点（昨年の2倍）**の応募があり、来場者から「宇宙や恐竜等、子どもたちの『好き』が詰まっていて楽しい」との好意的なご意見を多数いただいた。



「時空をこえるタイムリープ公園」「竜宮城公園」など子どもたちが思い思い描いた作品が勢ぞろい





創意工夫による効果的な維持管理 ～来園のきっかけづくりと利便性の向上～

NEW レイズドベッドの新設と花育イベント開催

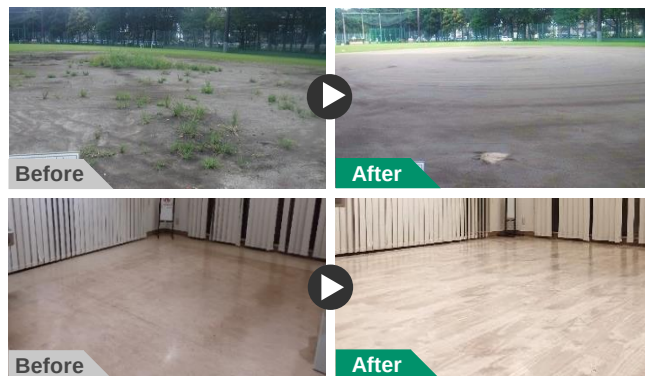
「みんなのひろば」に**車椅子でも植付け作業ができるレイズドベッド**を**新設**、インクルーシブな花育イベントを実施。花苗の植え付けには、花壇ボランティアがデザイン、公園職員とともに子どもたちへの指導を行った。水やりは来園した子どもたちが度々行い、**四季の花育体験**で愛着を醸成し、**遊具広場の利用促進**につなげた。



車椅子でも花壇に触れられるレイズドベッド

Update 都工事と連携したスポーツ施設のリニューアル

野球場照明電気設備改修工事と合わせ、グラウンド表層の整備、更衣棟の床も補修などを実施した。**利用再開へ向け利用者が快適に利用できる環境を整備することでサービスの向上を図った。**



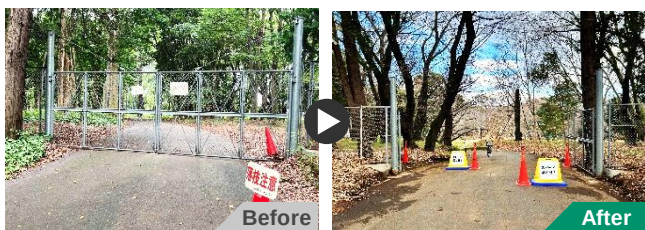
野球場整備前・更衣棟補修前

野球場整備後・更衣棟補修後

地域や利用者の声を反映した自主事業の取組

NEW 公園連絡協議会で地域の問題を解決

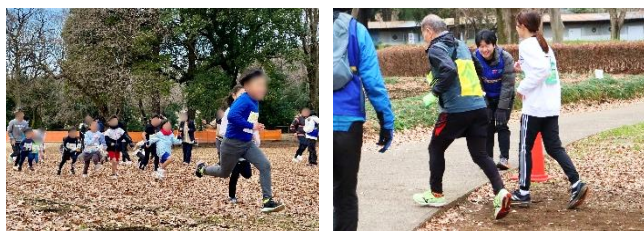
近隣町会からの要望があり、急斜面で自転車接触事故防止のため開放されてなかった**防災扉門扉を新たに開放**した。自転車接触防止看板の新設や大型緊急車両の通行、安全のための樹木剪定も行い、**利便性と発災時の利用者避難路の確保につなげた。**



「今までは外周を迂回するしかなかったが、日常でも散策できて嬉しい」「火災が起きてでも園内にすぐに避難できて安心」との声をいただいた

Update クロスカントリーイベント「キヌクロ」

夏の開催は大雨のため、利用者の声から初めての冬開催となった。当日は小学生から高齢者、障がいを持った方まで幅広い層が参加し、**みんなで励まし、助け合う**優しい雰囲気の中、公園の起伏を生かしたクロスカントリーを開催し、健康増進に寄与。



参加者やサポーターを広く募集し、子どもや高齢者、障がいのある方をフォローしながら全員の完走を実現

都の政策と連動した事業の実施

NEW アートイベント「砧の布」、東京パークガーデンアワード、遊具情報連絡会



「砧の布」イベントで染物アート

都事業「アートイベント砧の布」、「東京パークガーデンアワード」、「UD遊具自治体・管理者向け情報連絡会」の開催に向けて、各所の調整等を全面協力することで円滑な運営に貢献した。

防災に関する普及啓発

防災事業

Update 参加者2,000人、防災フェスタ



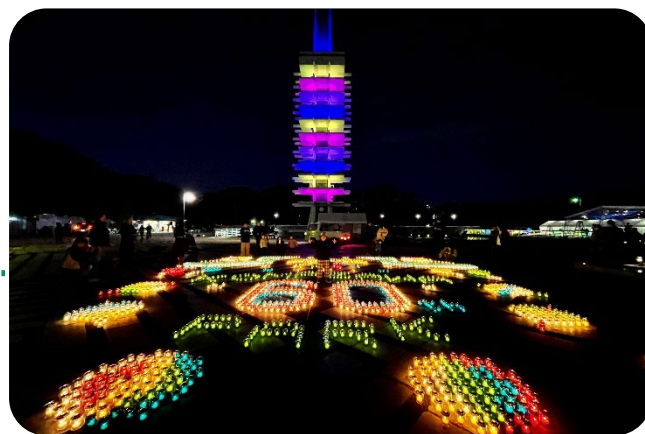
実践的なAED訓練

近隣住民の防災意識を高めるため、世田谷区と共催で防災フェスタを9月に開催。参加者は**アートイレの備蓄や避難所のジェンダーレス防災を学ぶ等、地域の防災力向上に寄与した。**



駒沢オリンピック公園

地域や人をつなぐ
すべての中心となる公園へ



所在地：世田谷区、目黒区／開園面積：41.35ha

地域コミュニティとの連携による地域価値の向上につながる取組

Update 「開園60周年 駒沢ファンタジア2024」

開園60周年と開園記念日を地域一体となって祝うイベントを11月に開催。地域のコーディネーターとして、さらなるイベントの拡充・充実を図り、世田谷・目黒区の店舗・協力団体・関係機関等と協力した12店舗のマルシェ、16団体の展示・ワークショップ、27箇所をめぐるデジタルポイントラリー等を展開。**2日間で約1.4万人（前年比200%）が来場し、公園から地域の魅力を発信し、活性化につながる賑わいを創出した。**



「ピーボくん」「のるん」



地域ゆかりのマルシェ



記念塔から望む駒沢ファンタジア



大盛況の中央広場（キッチンカー10店舗）



東京2020大会出場の騎馬隊が
開園60周年をお祝い

公園の新しい魅力を地域と協力して発信！ 施設の魅力向上につながる取組

Update 参加型「7,000個の大規模キャンドルアート」

スケールアップ（196㎡→1,764㎡）したキャンドルアートと記念塔ほかライティングによる幻想的な世界観を演出。**点灯には来場した親子も加わり、地域一体で60周年を祝うイベントを開催した。**



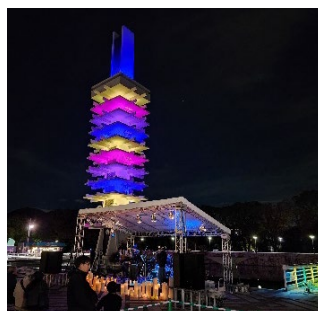
子どもと一緒にキャンドルアップ！



2,700個→7,000個に拡充

Update ステージイベントで地域の魅力アップ

近隣の大学や団体によるコンサートやダンスに加え、**図書館や児童館と連携した当公園ゆかりの絵本「ぐりとぐら」の読み聞かせや動画により、公園の魅力を紹介し、地域の方々の愛着を醸成した。**



歌や音楽で会場が華やかに♪



児童が絵本の読み聞かせや
パンケーキづくりを動画で紹介



健康増進に向けた取組、誰もが使いやすい公園づくり

Update スケートボードイベントの拡充とマナーアップ

東京2020大会からニーズの高まっている背景から、**プロスケーター、愛好家団体と連携し、講師の数を20名以上に増やしたマンツーマンのビギナー教室**を10月、3月に開催。競技の楽しさと合わせてマナー指導も行い、SS広場内・外の利用の意識向上を図った。**一部のマナーを守らない利用者へは、愛好家団体・所轄警察との連携や警備の巡回強化（5倍）・配置することで改善に寄与した。**



ビギナー教室
(前年の2回から3回へ増)



3月20日、駒沢大学駅前の
スケボーマナーアップキャンペーン

発災時の体制構築、地域の関係機関等との連携、防災に関する普及啓発

防災
事業

NEW 東京都現地機動班との連携訓練

東京都現地機動班、東京都公園協会
の参集者と東京都スポーツ文化事業団による初動対応訓練と防災についての研修を実施。防災施設を公園職員が解説し、**現地機動班参集者が初めて訓練を体験することで、発災時の体制を構築した。**



参集者へ防災設備の説明

Update 目黒区町会の連携拡充 地域連携防災訓練

目黒区、東京都スポーツ文化事業団に加え、**新たに東急電鉄、東急バスの社員が参加し、防災施設の稼働訓練を行ったこと**で、**発災時に重要な自助・共助・公助への理解へつなげた。**近隣の目黒区側4町会にも声がけし、地域の防災力を高めた。



かまどベンチの設営

NEW 防災フェスタ in KOMAZAWA

東京都スポーツ文化事業団と共催し、災害時に役立つ消火訓練、防災トイレの紹介、すごろくゲームで防災を楽しみながら学ぶプログラムなどを取り入れた**防災フェスタを初めて実施し、4,000人が参加。防災に関する普及啓発につなげた。**



防災井戸の説明

大規模イベントへの適正な利用指導

Update 数千・数万人が訪れる、大規模イベントへの適正な利用監督、管理、指導

「餃子フェス」「ラーメンフェス」「日韓まつり」「わんこ祭り」等、中央広場での大規模イベント時の運営や管理状況（設営、撤去、車両通行、駐輪、ゴミ、音量ほか）を監督。不適正時には主催者へ適宜、指導や注意を適切に行い、**来園者が安全、安心に利用できる環境を確保した。**



臨時駐輪場設置（利便性向上）

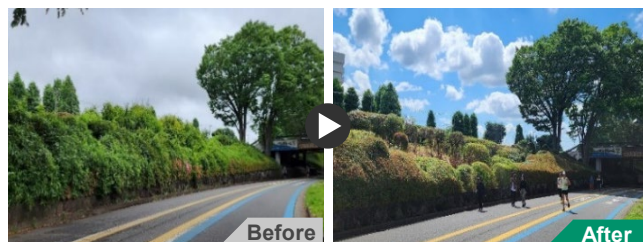


警備状況の確認・指導

共同作業による効果的な維持管理

Update 中長期的視点に立ったパークビュー 「大刈込」5,000㎡の株物肥大化解消

経年（開園60年）によって、株物などの肥大化や実生木繁茂が顕著となってきたため、3カ年計画で景観維持・改善に着手した。着手2年目となり、23種のうち成長が早く景観を乱す株物や低木の樹形の整枝や樹高の切り戻し・間引きを行い、**園内唯一の築山をメリハリのある均整のとれた美しい景観として維持した。**



利用者から「景色が素敵になって走っていて気分がいい」の声



代々木公園

多彩な活動が交差する 都心のライブラリーパーク



所在地：渋谷区／開園面積：54.4ha

新たな価値を生み出す共創

NEW 「渋谷 de トレラン」

代々木公園の魅力や防災施設の紹介と渋谷区の公衆トイレ等を巡る「トレラン（トイレランを略した名称）」を合わせたウォーキング・ランニングイベントを10月に開催。多様な参加者層に向け代々木公園の**防災公園としての一面や魅力スポット、地域の観光スポット**についてあらためて知ってもらふ機会とすることができた。



イベントオリジナルの地域周遊マップを配布

Update 「スクランブルフットボールパーク」 「FOOTBALL JAM 2024」

渋谷を本拠地とするサッカークラブ「SHIBUYA CITY FC」と連携し「小学生向けサッカー教室」と当日無料の誰でも参加可能なサッカーアトラクションを開催。**昨年度のアンケートを踏まえ、今年度は6回開催（昨年度1回）**とすることで、より多くの方にご参加いただき、人工芝となった**球技場の更なる利用促進**につなげることができた。



総来場者数 約950人

キックターゲットなどにもチャレンジ

NEW 「ダブルダッチ体験イベント」

公園からのストリートスポーツ普及を目的に、年齢や性別、経験など関係なく誰でも参加できる、ダブルダッチを通じた交流イベントを4月と12月に実施。**ストリートスポーツの楽しさを発信するとともに公園利用マナーの普及啓発**も図ることができた。



初体験の方も気軽に参加

Update 「まちのこども園との活動」

「子どもが新たな視点を持つ機会を提供する」をテーマに、活動を通じて子どもが発見したことを基にしたカリキュラムを実施。**自主性や創造性を育む環境を提供することで、子どもの健全な育成に寄与**することができた。



生き物観察会

Update 「ジャズフェスティバル」

「TOKYO PARK GARDEN AWARD」と連携した合同イベントとして11月に開催。**音楽ファンだけでなく、ガーデニングファンにもPR**できたことや飲食エリアとケータリングカー出店などを通じ、**前年比114%約400人の参加者**に楽しんでいただくことができた。



オーリーブ広場でフリーライブ



SDGsを推進する新たな維持管理

NEW

サーキュラーパークへ向けた試み



フラワーランド内の**バラ花壇リニューアルを実施**。バラ園内散策路に保水性の高い真砂土を用いることで、**除草回数の減少と散策路の温度上昇を防ぐ効果からSDGs目標に貢献**することができた。



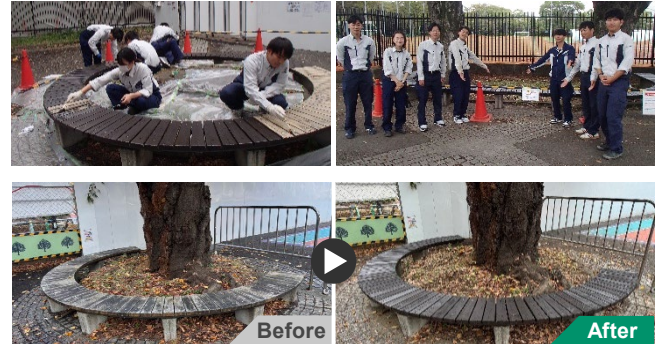
リニューアル前の状況

真砂土、枕木、ガーランドを設置

NEW

協働による維持管理

ボランティア活動をしたい企業と塗装メーカーとをマッチングさせ、サークルベンチ7基のベンチ板塗り替えを実施。また翌日の養生撤去作業等をSC職員と近隣中学校の職場体験にて行った。



ベンチ改修（施工前）

ベンチ改修（施工後）

利用ニーズに対応したトライアル

NEW

ドッグランにおける試験的な取組

- ドッグラン利用者とサポーターズクラブ、SCによる**意見交換会を通じ、小型犬エリア・大型犬エリアの試験的入れ替えとアンケート調査を実施**。
- アンケート調査からの**潜在的ニーズを踏まえ、入口まわりのサインを視覚的なピクトにするなど、より効果的なサインにリニューアル**。



現地のエリア入れ替え告知

効果的なサインにリニューアル

「もしも」に向けた普及啓発

防災事業

NEW

渋谷消防署と連携した体験型普及啓発

防災について誰にもわかりやすく普及啓発を行うため、**外国人等に向けたインフォグラフィック活用**の災害対応についての説明や**起震車・消火器訓練等の体験コンテンツを展開**し、多くの来園者に防災意識を高めてもらうことができた。



起震車による地震体験

NEW

自治体・消防・警察等と連携した水防訓練

風水害を想定した積み土のう工法・マンホール噴出防止工法・水のう工法・排水ポンプ訓練等を通じた実践的な訓練を6月に実施。**渋谷区、消防署・消防団、警察署との連携強化から、地域全体の防災力向上を図ることができた**。



積み土のう工法訓練

Update

ケヤキ並木に大集合「防災ライフ・フェスタ」

防災公園や災害についてさらに広く知ってもらうため、**協力・出展数を昨年度の8団体より13団体に拡充**しケヤキ並木にて3月に開催。防災に関する多彩なコンテンツを揃え、**前年比200%約5,000人の参加者に防災の普及啓発を行うことができた**。



参加団体を拡充して開催



善福寺川緑地

サクラ並木と心やすらぐ 緑の回廊



所在地：杉並区／開園面積：18.08ha

自治体と連携した地域猫の適正化

NEW 地域団体設立のコーディネートと適正指導

園内30箇所にてネコのエサやりが恒常的に行われ、食べ残しや糞尿に関する苦情が寄せられていた。そこで、**公園管理者から動物行政（杉並区）および地域の愛好家に呼びかけて団体を設立し、三者で協議した。**『飼い主のいないネコ対策』の一環として、餌やり場所の限定、不妊去勢、糞尿清掃、後片付けを実施したところ、**不衛生だった箇所も改善された。**



公園・区・団体の三者で覚書を交わした

令和6年度の取組

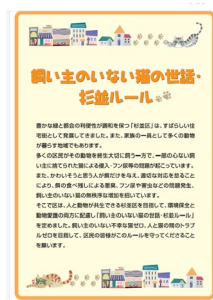
① 日常の公園管理におけるマナー啓発及びトラブル対応による適正化

② 『飼い主のいないネコ』の説明会開催

- ・東京都公園協会、杉並区保健所（杉並区）、地域団体を招聘して説明会を開催

③ 園内の『飼い主のいないネコ』活動に際し覚書の締結

- ・園内に置き餌をしない
- ・活動対象箇所を定め、衛生管理の徹底



杉並ルール

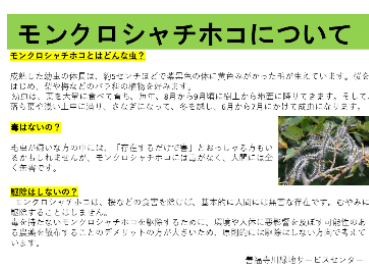


覚書

自主事業「公園連絡協議会」における利用ニーズ把握と施設改善

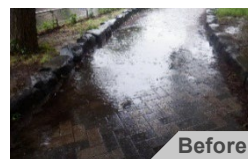
Update 公園連絡協議会

地域のコミュニティ及びつながりを深めることを目的に、杉並第二小学校、PTA、成田青少年育成委員会、おとうさんクラブ等が参加し、公園連絡協議会を実施。小学校の通学路で心配されているカラス対策やサクラの害虫モンクロシャチホコ等に関する公園の取組を情報共有し、公園管理の理解を深め、「農薬を使ったりせず害虫対策をしてくれて、安心して利用できる」との声をいただいた。



Update 杉二小広場の排水不良を改善

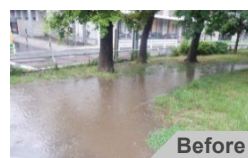
公園連絡協議会にて、通学路になっている杉二小前広場が雨天時に園路が冠水するとの情報を受け、施設補修を実施。だれもが訪れやすい公園を目指し、**排水施設の増設や不陸解消補修で、通行しやすく改善された。**



不陸（施工前）



不陸解消（施工後）



Before



After



創意工夫による効果的な維持管理～地域の理解を深めた桜の健全育成～

Update

桜の樹勢回復に向けた ピックエアレーション

桜並木を次世代につなぐため、専門家の指導を仰いだサクラの根系のピックエアレーションと土壌改良を計画的に実施（180箇所/3本）。パークビューの維持に来園者からは感謝の声をいただいた。



ピックエアレーション実施状況

NEW

桜の保護に向けた 樹木点検・診断

桜の根株腐朽が発生している可能性のある134本を公園協会樹木医が外観診断し、結果を受けて、専門業者樹木医により根株精密診断129本を実施した。今後、桜を保護するための基礎資料を作成した。

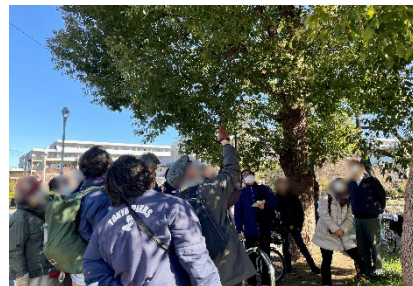


公園協会樹木医による診断状況

NEW

桜の被圧樹木の適正な 剪定

桜を被圧する樹木の剪定を実施するにあたり、樹木医、公園利用者、有識者らが共同で現場を確認し、対象樹木抽出や剪定方法等を確認し、地域住民の理解を得て樹木の生育に考慮した剪定を行った。



有識者、地域住民らとの現場確認状況

防災に関する普及啓発 ～次世代の子どもたちが主役の地域連携防災～

防災
事業

Update

新たな連携先との地域連携防災訓練

杉並区成田青少年育成委員会、杉並区防災課、近隣小学校3校の親子と中学生ボランティアが参加する地域連携防災訓練を実施した。発災時に役立つ知識・実技を取り入れたウォークラリー形式で、すべて体験した子どもたちを「子ども防災公園博士」に任命・防災メダルを授与し、地域の防災力を高めることに寄与した。



かまどベンチ組み立て訓練

防災メダルをもらって喜ぶ
参加者の子どもたち

地域ニーズに応えた親子交流プログラム

Update

スポーツ教室イベント

親子でスポーツに親しむ機会を提供するため、株式会社読売巨人軍(ジャイアンツアカデミー)と連携し、キャッチボール教室を実施。「息子とキャッチボールする機会も場所もなかなか無いので今日は本当に嬉しかった」等、多くの参加者から感謝の言葉をいただいた。



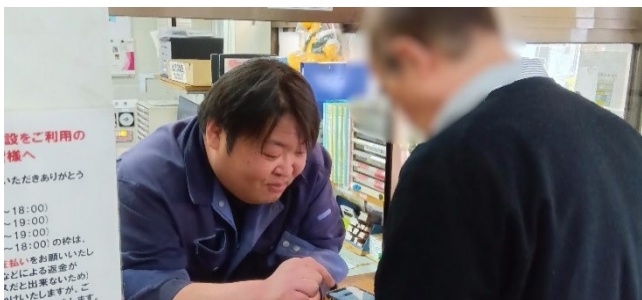
コーチからアドバイスをもらい、親子でバッティングも練習

窓口業務の適切な遂行

Update

利用者に寄り添った窓口対応で感謝の声

スポーツレクリエーションシステムの端末操作の問合せについて、職員がお客様へ「一緒にやりましょう」と丁寧に操作をお伝えした。後日に「できた時一緒に喜んでくれた」「職員作成のメモを見て復習している」等、ご家族から感謝の言葉が「都民の声」に届いた。



誠心誠意の対応で、仲間に操作を教えられるように！



和田堀公園

生物多様性の保全と活用 区部の貴重な自然を守る公園

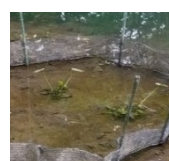


所在地：杉並区／開園面積：26.05ha

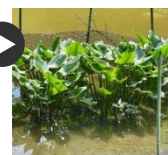
生物多様性の保全に関する取組 ～コウホネ復活プロジェクト～

NEW 絶滅危惧種コウホネの復活

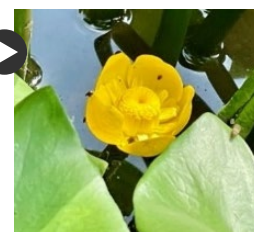
- 和田堀池のコウホネは、外来種アメリカザリガニの大量発生により、コウホネは全て枯れてしまった。
- 令和4年、採集した埋土種子（シードバンク）により、水槽でコウホネを復活させることに成功。
- 令和5年、外来種駆除、植え戻し場所の浅場作りを参加者を募り実施し、今年度4月に埋土種子で復活したコウホネを植え戻し、これまでの取組の成果で花を咲かせるまでに回復した。



植え戻したコウホネ
(2株)



順調に成長
(約20株)



花を咲かせるまで成長

自主事業 ～開園60周年 自然とのふれあいイベント～

NEW 開園60周年「アドベンチャーウォッチング」

和田堀池を対象に公園の歴史を学び、生物多様性保全活動として取り組んできた**在来種（コウホネ）が生育・生息できる池の環境づくり（生態系保全の取組）**に触れてもらう機会として5つのコンテンツを提供した**自然観察会を開催した。**

バーチャル動画で取組紹介

和田堀池の成り立ちや、以前は繁茂していた水生植物コウホネがなぜ絶滅しそうなのか、**イベントの導入に紹介動画を見ることで子どもたちの心を掴み、和田堀公園への愛着醸成や池の生態系について親子に分かりやすく説明することができた。**



戦前は遊園地!? 動画を見て驚く子どもたち

専門家によるガイド

外来種対策や浅場づくり等の取組を紹介。また、**植え戻したコウホネの花を観ながら、ザリガニ駆除等の外来種対策による在来種保全やかいぼりの重要性等を伝え、公園の生態系の多様性、種や遺伝子の保全について理解を深めることができた。**



復活したコウホネの解説を楽しむ参加者

生き物水族館とスケッチ

池とその周辺で捕獲された11科12種の**生き物の生体展示や専門家による解説**により、図鑑ではわからない生き物の動きや形を間近で観察することで、**子どもの生き物に対する興味を示すきっかけをつくった。**夏休みの自由研究の手助けになった。



生き物を観察する子どもたち



発災時の体制構築、防災に関する普及啓発

防災
事業

NEW 現地機動班との連携訓練

東京都現地機動班と防災施設運用訓練を3月に実施。杉並区の施設であるため、区連携して公園職員が防災施設の運用について解説し、**発災時の関係を構築した。**



応急給水槽等の防災施設の運用訓練

NEW 防災フェスタ 区と無線情報伝達訓練

杉並区防災課へ呼びかけ、区と公園をつなぐ防災無線を配置・情報伝達訓練により、発災時の連絡体制を構築した。防災フェスタでは、警察犬による救出訓練等を実施し、防災の普及啓発に貢献した。



防災フェスタでの救出訓練（700人参加）

NEW 新規団体と連携した地域連携防災訓練

子育て活動団体と連携した地域連携防災訓練を実施。家庭内で役割分担を決め訓練に参加。**発災時に共助となり得るような家族モデルとして期待出来る人材の育成**にもつなげた。



家族でかまどベンチを体験

関係機関等との連携による、ペットのマナー向上と防災の普及啓発

Update 区と連携した犬のマナーアップ教室開催

- 杉並区保健所生活衛生課との共催で「犬のしつけ方教室」を開催。ドッグトレーナーのマンツーマンの指導は、飼い主の悩みが多い散歩方法を学び、散歩マナーを向上できるプログラムで参加者から好評を得た。
- ペット防災の内容を組み入れ、災害時に避難する際はケージや備蓄品を用意しておくことの重要性を説明した。**発災時のペットとの関わり方を、改めて考えるきっかけ**となり、防災への普及啓発につなげた。



飼い主と一定のペースを保つ訓練
ドッグランで交流が見られた



噛み癖等悩みを専門家が助言
熱心に指導を聞き入る参加者

都事業への全面協力と適切な維持管理による景観の向上

Update 調整池工事など河川工事への協力

都の河川改修工事（第三建設事務所）に伴う、園内迂迴路設定や地下埋施設等の情報共有を行った。都立公園として安全・安心・快適な施設維持管理に繋がるよう、**大規模改修に向けた積極的な提案、地域のニーズを伝える等の協力ができた。**



現場での詳細な打ち合わせ

Update 第二競技場インフィールドの向上

都の改修工事の期間に合わせて、閉鎖された**競技場インフィールド内の芝生**について、専門業者によるエアレーションや播種、施肥等を行い、**良質な芝生の育成と競技場景観の向上**を図った。利用再開当日は都と連携し、安全に配慮して仮設施設の迅速な撤去を行い、ランナーを迎えた。美しいフィールドを利用できることに喜びの声が多数あった。



エアレーション作業状況



仮設撤去状況



汐入公園

地域交流と賑わいを生み出す
活気ある公園



所在地：荒川区／開園面積：12.9ha

地域の熱い声に応える多彩なイベントと交流の場の提供

NEW 『桜まつり』初開催 ～春の新しい輪～

ぬり絵ワークショップやステージ演奏、キッチンカーなどを展開し、桜を鑑賞しながら楽しめる空間を創出。地域に新たな賑わいをもち、地域交流を促進する機会を提供。



約2,000人来場 連携：町会、企業等
桜のぬり絵を楽しむ子ども達

Update 毎年恒例『汐入まつり』 ～夏の賑わいを演出～

レモングラスリースのワークショップや防災スタンプラリー、ダンスパフォーマンス、恐竜展示等、幅広い世代が楽しめるコンテンツを揃え、多世代交流の場を創出。



約10,000人来場 連携：区・警察・消防・町会・企業等
防災スタンプラリーは長蛇の列

NEW ハーブグッズイベント ～香りを楽しむ秋～

6,000枚のチラシ・ポスターを配布し告知。ボランティアと共に製作したサシェやフレッシュハーブを販売。ハーブの普及啓発と魅力を発信し、地域の関心を高めた。



約2,500人来場
サシェはお気に入りのハーブを選ぶ

隅田川花火大会の混雑緩和と来園者の安全確保

Update 全長2kmにカラーコーンを設置し滞留防止

Xで発信した事前の注意喚起が72万回プレビューされ、当日の混雑を防いだ。大階段の閉鎖や巡回警備、園路にカラーコーンを設置し、人の滞留を防止することに成功。公園が制作した緊急時案内番号も効果的に機能し、迷子対応もスムーズに行い、来園者の安全を確保し、事故なく終了。



約40,000人来場 連携：区・警察・消防・町会等
仮設駐輪場を整備

一方通行でスムーズな導線

現在地の番号を掲示

ハーブのある暮らし『ホワイトセージクリスマスリース』

Update 有料ワークショップ初開催

今年から有料化し価格を1,000円に設定。有料でも満足度は100%を達成した。公園の特色を生かしたオリジナルのハーブリースを通じて、ハーブを身近に感じる機会となった。さらに、ボランティアと連携して開催することにより、ボランティア活動の認知度向上にも貢献。



職員が作り方をレクチャー

完成したリースに大満足



地域とともに守る 未来のために

防災
事業

NEW 防災スクール開講

「災害時に防災公園が果たす役割」をテーマに近隣小学校3年生を対象に、災害時や緊急時に備えた防災関連施設を紹介し、発災時の対応を解説した。防災意識の向上と、今後の防災訓練への積極的な関与が期待できる成果を得た。



真剣に耳を傾ける生徒達

Update 地域連携防災訓練

町会や学校等との連携し防災訓練を実施。給水訓練や避難所開設、防災用マンホールトイレ設営を実施し、地域一帯となり実践的なスキルを身につけた。近年の自然災害の増加に対する強い関心が見られ、約300人の参加があった。



住民同士協力してトイレを組み立てる

Update 防災フェスタ

消防署、自衛隊、警察署等と連携し、煙体験や車両展示、防災スタンプラリー、かまどベンチで煮炊き体験等を実施。防災について楽しく学ぶことで地域の防災意識が高まり、地域全体での防災活動推進に向けた重要な一歩となった。



煙の怖さと避難方法を体験

新たな一歩！パークミーティングの意見を反映したイベント

NEW 『野草観察してみよう』初開催

区、警察署、消防署、町会、保育園と連携し、パークミーティングを初開催。地域防災への関心が高まり、訓練における協力体制の重要性を共有する場となった。日常利用が多い保育園からは、子ども用便座の必要性が挙げられ、早急に対応。さらに、子ども達が自然を学ぶ機会を求める声を受け、植物について楽しく学べるプログラムを提供し、環境教育の面でも貢献することができた。



「ほとけのざ」等について説明



ハーブの香りも体験

快適な空間を創出

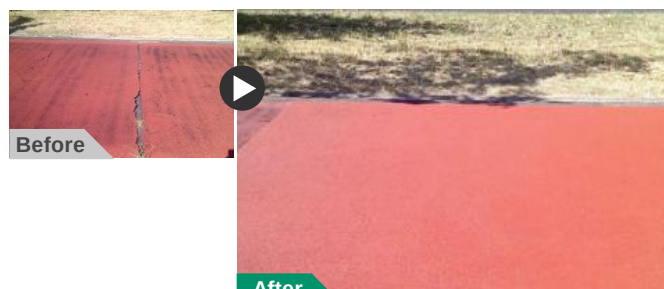
Update ベンチ・パーゴラリニューアル

利用頻度が高いベンチの座板を交換し、快適性と安全性を向上。さらに、パーゴラの塗装を実施し、美観の維持と耐久性を強化した。加えて、定期的な点検と適切な補修を行うことで、施設の長寿命化と利便性向上を実現。利用者が安心して過ごせる、快適な憩いの場を提供した。



Update ゴムチップ舗装の補修

子ども達の利用が多い園路のゴムチップを補修。経年劣化による凹凸を解消し、歩行面を均一化することで、滑りにくく安全な環境を提供した。この改善により、子ども達の転倒や怪我のリスクが大幅に低減。施設全体の印象も向上し、利用者からも高い評価を得た。





城北中央公園

いつまでも愛される
みんなで育てる公園



所在地：板橋区、練馬区／開園面積：25.89ha

都の政策と連動した事業の実施に全面協力

NEW 9/1 東京都・板橋区合同総合防災訓練 における利用調整と現状復旧への貢献

令和5年度から延べ25回に渡る総合防災部と調整、協力を行うことで開催に向け貢献してきたが、台風10号の影響により開催中止となった。設営撤去後、芝生や園路等の施設の損傷が確認された。特にA野球場と陸上競技場の芝生損傷が著しく、原状回復に向けて都と協議・連絡調整を密にとり、利用者への影響を最小限に留めるよう丁寧に利用調整（利用状況の周知や説明等）を行いながら場内を整備した。

開催中止決定となったメイン会場の様子
(陸上競技場)



会場資機材の撤収作業直後
(養生敷設により芝が枯れた)



直営で応急処置
(砂入れによる不陸整正)



陸上競技場の原状回復後
(撤去・施工後の安全確認)



野球場の原状回復後
(撤去・施工後の安全確認)

都からの要請への協力「総合防災訓練に向けた良好な維持管理」

Update 複数年かけたメイン会場の施設改善

総合防災訓練の開催に向けて、前年度よりメイン会場周辺4箇所のトイレや休養施設等の補修、11箇所の段差解消を実施。専門業者による、トイレ高圧洗浄、尿石除去やベンチ塗装、園路補修、樹木剪定等を集中的に実施することで、公園施設の質や魅力が向上し、都や警察等から会場整備の対応に感謝された。



トイレ内部は天井から便器洗浄やベンチ座板交換、塗装等を実施



Update 延べ147人、135本剪定、5,780㎡の刈込

開催に向け、公園を熟知した近隣6公園の職員と共同作業を実施。会場周辺の枯枝除去や低木刈込作業を実施し、安全と清潔感の両立により、ホスト公園としての受け入れ体制を整えた。



Before



After



Before



After

会場周辺の草地（施工前）

草地の刈込・除草（施工後）



防災に関する普及啓発（防災フェスタ、地域連携防災訓練）

防災
事業

Update

板橋区 町会連携の防災訓練

今回で2回目となる板橋区桜川町会との合同防災訓練を開催。
高齢者が次世代の子どもたちに調理方法を伝授するなど、町会、警察、消防、公園が協力し、地域の防犯・防災力向上につなげた。



炊き出し訓練に警察が協力



桜川町会「炊き出し訓練」



消防による心肺蘇生法訓練

NEW

オール練馬！練馬区 消防・警察、図書館連携の防災フェスタ

開催中止となった総合防災訓練に代り、公園を舞台にした地域連携の防災フェスタを初開催（参加者500人）。消防、警察、町会、練馬区、図書館の「オール練馬」で防災を普及啓発した。



警察による水防訓練



図書館連携の防災紙芝居



防災備蓄品クイズ



防災アイテムの配布

自主事業 ～オータムフェスタ参加につなげた公園連絡協議会～

Update

流れをつくる特別連絡協議会 新たに子育て支援事業者が初参加！

練馬区の子育て支援団体へ調節池工事現場見学会（6月）、特別連絡協議会（8月）に招待し、公園連絡協議会（10月）への参加を呼びかけた。公園連絡協議会でオータムフェスタ（11月）の参加を呼びかけ、参加団体を拡充した。新規団体からは「公園からの呼びかけで、秋のイベントや日々の活動に参加できるのが嬉しい。」と潜在的なニーズを引き出すことができた。



6月



8月



10月



11月

施設の魅力向上につながる取組

Update

2つの区と連携した「古代フェスティバル」

東京都の『文化財ウィーク』事業に合わせて板橋区・練馬区と連携した茂呂遺跡と栗原遺跡のガイドを行った。経年劣化で改修を要する栗原遺跡は時間予約制（20人×5回）、茂呂遺跡は保護のため定員制を導入した（参加者数は289人）。職員が高齢者や聴覚障がい者への筆談対応や傾斜地の安全管理の声がけをするなど、きめ細かい案内を行い、参加者から好評を得た。



栗原遺跡と練馬区学芸員の解説



茂呂遺跡と板橋区学芸員の解説

都民協働で生物多様性の普及啓発

Update

ボランティアとの協働による自然観察会

6月：とんぼ池の清掃でギンヤンマのヤゴを初確認。希少種の生息状況を把握し、池に生息する生物多様性の普及啓発と保全の重要性を地域の方へ伝えることができた。

8月：観察会では参加親子より「公園の方のガイドが面白くて勉強になった」等、感謝の声をいただき、蝶など種の多様性を知る機会となった。



ヤゴの発見に喜ぶ親子



チョウ類の飛来に歓声



光が丘公園

地域密着、協力団体と一緒に
「地元の公園」をつくる



所在地：練馬区、板橋区／開園面積：60.78ha

地域に愛される公園を目指した大規模イベントの開催

Update 職員のアイデアで公園を身近に感じるコンテンツ満載！「公園フェスタ」

公園から近隣商業施設やNPOなどの11の団体に協力を呼びかけ、「公園フェスタ」を11月に2日間開催（約63,000人参加/前年の16倍）。公園の働く車体験では子ども用のユニフォーム・帽子を作成。公園職員になりきり、「公園以外では草刈機に乗れないから嬉しい！」と家族で記念撮影を楽しんでいただいた。初めて実施したノコギリを使った丸太切りでは、日常ではできない体験を通して「SDGsの仕事でカッコいい！」「木を切るの楽しい♪またやりたい」等の声もあり、公園の仕事を身近に感じていただいた。マスコットキャラクター「ひかりんぐと一緒に」のコーナーでは、ぬりえ、エアひかりんぐとの記念撮影コーナーで公園への愛着を醸成。「どんぐりつかみどり」ゲーム等でどんぐりの種の多様性を学んだり、公園の自然を感じてもらった。初参加の「練馬区立 四季の香ローズガーデン」は、特設の「園芸相談コーナー」を用意。同日開催の農業祭で花苗購入した来園者から「花の栽培を教えてもらえたので大切に育てます」と好評だった。



職員と同じ服で草刈機を運転



丸太を切り落とした達成感は格別



思わずひかりんぐと同じポーズ！



ローズガーデンが初出張

のびのび体を動かす「遊びの場」を提供

Update 子どもも大人も遊んで笑って楽しんだ

プレーパークや子育て支援団体等と連携した「感謝祭」を12月に開催。11種（新規9種）の多様なプログラムによる「ふだんよりちょっとだけ特別な体験」ができる子ども向け体験型イベントを開催（500人参加/2日間）。子どもの自主性に任せた遊び体験を促す「子育て応援施設」として公園のPRや、親も童心に帰って夢中になるなど、親子の絆を深め、地域の輪が広がるイベントになった。



防災一輪車レース



昔遊び（射的）

安心安全の公園管理

Update 適正指導でマナーアップ・人命救助

花火、スケートボード、バーベキュー等、様々な利用機会が増える夏季に特別巡回を複数回実施、利用者への声掛け、ルール・マナー啓発看板の新設、HPで告知等で不適切な利用を抑止することで花火の苦情はゼロになった。また日頃よりAED訓練等を実施した成果として、6月に公園職員が園内で倒れていた来園者を人命救助し、東京消防庁消防総監より感謝状を授与された。



職員による夜間巡回



消防庁からの感謝状授与



体験型の訓練、出前防災授業など普及啓発活動の拡大

防災
事業

NEW よさこい祭での 防災トイレ普及啓発

地域最大級のイベント「よさこい祭り」期間中に、防災トイレの体験会を開催。「夜はチャックに目印があると良い」等、**実践的な感想もあり、備品の改善につなげた**。日ごろ防災に関心の薄い層にも**日常備蓄の重要性を普及啓発できた**。



「もっと手前に設置したら圧迫感がない」との感想

Update 新たな防災体験 プログラムの導入

都立田柄高校との全学年防災訓練を昨年に続き実施し、定着化した。今夏、防災介助士による車椅子を使用した要介護者救助、一輪車での物質運搬といった**新たなプログラムを導入**したことで若い世代への防災意識の向上に寄与した。



車椅子での介助や要配慮者の気持ちを体験

NEW 近隣図書館へ防災展示 近隣小学校へ出張授業

隣接する**光が丘図書館と連携し**、防災の日に当園オリジナルの「防災トイレ普及漫画」等、紹介コーナーを**出張展示**した。また、**夏の雲小学校の総合的な学習の時間に出前授業し**、児童へ公園の**防災施設を紹介**した。



小学校への出前授業



トイレ漫画の展示

地域防災の集大成「防災フェスタ」

防災
事業

Update 新たに光が丘図書館との連携

光が丘地区連合協議会を始めとする7団体と連携した「防災フェスタ」を実施。起震車体験、防災トイレ等災害時の初動対応を学んでいた。新たに光が丘図書館による子ども向けの「防災おはなし会」を開催。その他防災釣りゲーム、防災ジエンガ等**楽しみながら防災を学べるコンテンツを用意**することで、子どもから高齢者まで幅広い年齢層に防災知識を伝えることができた。



防災おはなし会



子ども向け防災ジエンガ

利用者の立場になって施設を改善

NEW テニスコート受付の日除け設置

4月からスポーツ施設利用の受付がテニスコート更衣棟に移動したことから、**夏の強烈な日差しを避ける**ためのタープを新設した。新システムでの受付に必要なスマホの画面が見づらくなっていたことから、**利用者目線で改善**し、利用者から感謝の声をいただいた。また、全スポーツ施設の案内板も更新し、分かりやすい内容となった。



日陰による「涼」を提供 「手続きする場所が涼しくて助かる」との声

Update ニーズに合わせた陸上競技場の走路改善

学生、ランナー、高齢者のウォーキング等利用範囲が広いトラック部分を改善した。芝生が侵入し、外周との判別が不明瞭になったコーナー部は、芝生をはぎ取り、凹凸があった走路を誰もが走りやすいフラットな走路になった。利用頻度やニーズが高いため、**3カ年補修計画を1年前倒し**、2カ年で全面閉鎖しないよう補修した。



芝生が走路に侵入



計画的補修で全周走路を改善



舎人公園

地域の安心安全を支えながら
地域の絆を育む緑のオアシス



所在地：足立区／開園面積：64.9ha

地域の力を結集し、未来を守る防災力

防災
事業

Update 「防災フェス」で防災意識向上

企業等10団体と連携して開催。職員制作の「段ボール迷路～避難体験～」で震災時のスキルや知識を学ぶ機会を提供し、防災の堅いイメージを払拭した体験型コンテンツを実現。新たな団体を誘致し、多彩な防災体験を提供。防災意識の向上だけでなく、**地域全体での連携強化と防災力向上にも貢献した。**



防災フェスタ 来場者 12,000人

Update 大規模地域連携防災訓練

警察署、重機会社、生命保険株式会社、近隣幼稚園、バス会社（初連携）と連携し、大地震発生時の路線バスと幼稚園バス立ち往生を想定した訓練を実施。警察、消防、自衛隊が救出を担当し、職員や企業が導線確保や誘導を行うことで、**効率的な救出活動と発災時の役割分担を明確にし、備えを万全にした。**



NEW 「避難所運営訓練」

前年度の「舎人公園連絡協議会」で、避難所での訓練の必要性が議論され、区に参加を打診。**舎人公園として初めて近隣高等学校の避難所運営訓練に参加した。**訓練を通じて町会や関係機関と連携を深め、防災課題や備えについて共有。**新たな結びつきを築き、今後の防災活動の大きな成果となった。**



NEW 「防災キャンプ」

消防少年団と連携し「防災キャンプ」を初開催。防災マンホールトイレの組み立てや設置を体験し、共助の意識を醸成。子ども達は真剣に取り組み、実践的な防災スキルを習得した。消防署員から高い評価を受け、他の消防署への普及の可能性も広がった。**将来の防災リーダー育成につながる貴重な機会を提供した。**





舎人ライナーとコラボレーション企画 舎人公園フェスタ

Update 舎人公園駅乗降者数が昨年の261%に上昇

花と光のムーブメントと同時開催し、約2,000人が来場。駐車場混雑緩和を図るため、舎人ライナーとコラボし、乗車券提示で景品を進呈。ネモフィラ迷路やみどりの相談所を開設し、自然を楽しみながら学べる場を提供。コラボキャンペーンには1,050人が参加し、駐車場混雑緩和と利用促進に貢献した。



都営交通写真集を
先着で配布

広大な広場を利活用

NEW 「キッズ運動会」

キッズプログラムに注力する**企業と連携が成功**し、イベントの質が向上。運動会には観覧者を含め**300人が来場**し、親子で楽しめるリズムダンスなど全員が盛り上がる内容を提供。企業の広報効果で遠方からの参加も増え、新規利用者の開拓につながった。公園の魅力を発信し、**公園の認知度向上とさらなる利用促進につながった**。



ダンスなどで思い切り体を動かし楽しむ親子連れ

来園者が安心・安全に利用できるように

Update バリアフリーな観察窓を新設

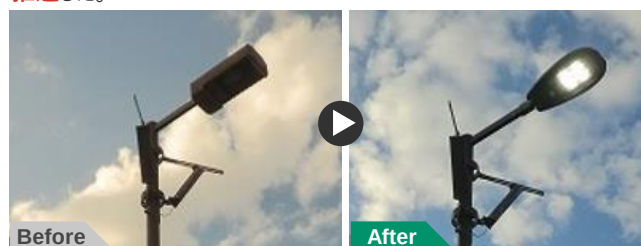
自然観察園に車いすや子どもでも利用できる観察窓を新設した。誰でも観察ができる環境を整えたことにより、体の不自由な方や高齢者、子ども達にとって便利な施設として生まれ変わり、**より多くの人々が自然と触れ合う機会を提供した**。



○ 新設した観察窓で野鳥観察を楽しむ利用者

Update 灯具の迅速な予防保全補修

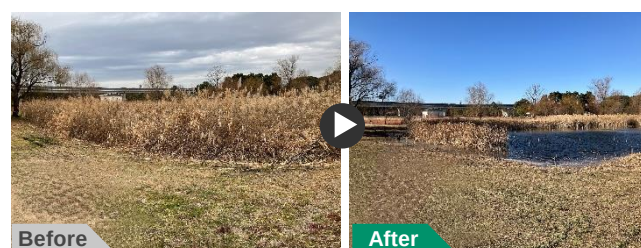
日常点検で駐車場照明の灯具1灯に経年劣化を確認し、脱落防止のため改修。追加点検により他の灯具も損耗していることが判明し、3灯を交換し、11灯をLEDに更新した。**新設灯具により脱落リスクが低減し、省エネ・安全性が向上し、快適で安心な環境づくりを推進した**。



利用者ニーズに応えた対応

Update 快適な水辺環境を

自然観察園および周辺の3か所の池において、利用者から要望の多かったクズの除去やヨシ刈りを実施し、**見通しの良い景観を確保し、観察に適した環境を整備した**。また、ハスや水辺の生きものを快適に観察できる機会を提供し、自然とのふれあいを促進した。





水元公園

広大な自然環境とハナショウブの調和が美しい水郷景観



所在地：葛飾区／開園面積：96.6ha

都内最大規模のハナショウブの魅力発信

Update 栽培管理の精度を向上

4年前から専門家を招いた検討会を定期的に開催し、株分けや土壌改良を進め、病害虫対策を強化した。さらに、品種同定調査を通じて品種台帳を作成し、**希少種の発見にも成功**。また、職員による技術指導を通じて、栽培管理の知見を広く共有。日々の丁寧な作業により、100以上の品種を安定的に管理している。その成果の一つとして、職員がバックヤードの管理から、花の品種まで1時間にわたってご案内する**ハナショウブガイドツアー**が好評を博し、**多くの訪問者にその魅力を伝えることができた**。



近隣公園への株分け指導

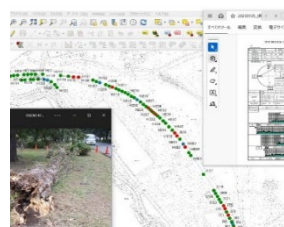


大好評のガイドツアー

パークビュースポット～ポプラ並木の景観維持～

NEW QGISを活用

パークビュースポットであるポプラ並木の、個体ごとの位置、樹木診断記録、枯損伐採記録の正確な蓄積が可能となり、剪定委託図面の作成や一元的な管理記録の共有が実現した。**維持管理の効率化が進み、貴重なポプラ並木を適切に保全するための基盤を確立した**。



広大な敷地を守る樹木管理

Update 高所作業車を活用した機動的な維持管理

広大な敷地の特性に対応し、今年より高所作業車を活用した直営作業を強化。**年間40回を超える作業で約600本の樹木を剪定**し、倒木リスクの低減や景観向上、利用者の安全確保に貢献。年間の委託費約350万円を削減。**削減分を補修費用に充てるなど、効率的な維持管理を実現した**。



Update 7公園連携共同作業で教育訓練

水元公園の技術職員が中心となり、安全管理講習会や共同作業を指揮。近隣6公園へ週ごとに集まり共同作業を実施することで、刈込時期が限られる低木を効率的に刈込み、景観改善に貢献。加えて、**経験の浅い職員の教育と、作業品質、スピードの標準化を図れるよう指導の場とすることで、公園全体の機動力を向上させた**。





パークミーティングの声を具現化

防災
事業

NEW 11町会合同地域連携防災訓練を実現

町会等とパークミーティングを開催し、「**発災時に町会ごとの訓練では機能しない。一緒に実施し、話し合う機会欲しい**」との声を受け、**11町会合同の防災訓練を実現**。防災士の職員がリードしながら災害時の具体的な行動や自助・共助の重要性を学び、防災訓練を通じて地域住民との連携を強化した。



地域防災について熱く意見交換



参加者数 11町会 約200人

各町会が協力し合い訓練を実施

自然に親しむ機会を提供

Update 親子で参加できる「米づくりプロジェクト」

年間6回にわたり、田植え、かかし作り、外来種駆除、稲刈り、脱穀・精米体験を実施。子ども達が実際に手を動かして学べるよう、参加者自身が多くの作業に関われるよう作業工程を工夫。**食育や環境保護の理解が深まり、稲作の苦労や魅力を体感いただいた。**



参加者数 延べ約200人

力作のかかしと一緒に



稲刈りは大人にとっても新鮮

Update 多世代交流「ふれあいフェスティバル」

企業等やボランティアと連携して、花や動物の魅力を伝えるワークショップ等を実施。区やJA東京スマイルが初参加し、野菜直売所の出店で賑わいを創出。**ステージ演奏は会場をはなしょうぶ広場に変更。多くの来園者の関心を引き大人気となり、地域活性化に貢献。**



来場者数 22,000人

地元JAと初連携



ステージ也大盛況

四季折々の自然の美しさを満喫

Update 再発見の楽しさ満載「自然観察ツアー」

夏はアサザやオニバス、秋はメタセコイアなど紅葉した樹木などを観察するガイドツアーをボランティア団体と協働で実施。貴重な水生植物や美しい樹木、水郷景観を紹介。いずれのガイドツアーも**参加者からは100%の満足度**を得た。**リピーターや地域住民の参加が増え、公園への訪問促進や地域コミュニティとのつながり強化に寄与した。**



参加者数 約100人

アサザについて職員が解説



メタセコイアガイドツアーは大人気

学ぶ・備える・守る みんなで防災

防災
事業

Update もしもの時に備えて「防災まつり」

9団体の連携により「災害用ポンチョづくり」や車両展示、起震車、AED・緊急通報体験のほか、**新たに江戸川河川事務所と連携し、「自然災害体験車」を導入し、避難備えることの重要性を学ぶ機会を提供。**また、**7団体の企業協賛を得て、防災スタンプラリーを実施し、備蓄品を配布することで、防災意識の向上を促進した。**



来場者数 11,000人

AED訓練



風・音・映像で洪水体験ができる車両



篠崎公園

地域とともに未来の世代を育む
コミュニティの中心となる公園



所在地：江戸川区／開園面積：31.2ha

色とりどりのアジサイと体験プログラム

Update 地域に根付いた「アジサイまつり」

篠崎地区になくはないお祭りになった「アジサイまつり」では、アジサイスタンプラリー、縁日コーナー、野点、キッチンカー、ガイドツアーなど、体験型プログラムを充実させ、大盛況となった。事前準備では、ボランティアと協力し下草刈りや落葉回収を行い、広報活動やチラシ配布を通じて多くの人々を集めた。アンケートでは99%が満足と回答し、アジサイ園の魅力を幅広い世代に発信できた。



約1,500人来場

小さなお子様には縁日体験が人気



職員がアジサイの特徴を解説

世界にひとつだけの作品が誕生！約500人が参加した四季折々のワークショップ

Update 職員手作りの押し花で『アジサイレジン工作』

親子連れに人気で各回満席に。アジサイが美しい公園であることをアピールし、来園者の関心を集めた。有料化により、ワークショップの運営が安定し、同時にしおり作りを無料で開催。満足度100%を達成。



参加費500円

Update 豊富な材料で『クリスマスリース工作』

園内の発生材を活用し、ドライフラワーや木の実、葉など20種類を超える材料を準備して開催。貴重な自然の魅力を再発見していただいた。100%が満足と回答し、リピーターも多く、イベントのファンを獲得。



参加費500円

Update 個性あふれる作品『ドングリ工作』

例年子ども達に大人気のワークショップで、今年は参加枠を約1.5倍増加。自由工作に加え、キーホルダー作りも新たにメニューに取り入れ、参加者の要望に応えた。自然と触れ合いながら楽しむ機会を提供。



参加費50円

絆を深める地域活性化イベント

Update 多世代に人気「ふれあいフェスティバル」

企業等と連携し、相撲体験、ちゃんこ配布、寄せ植え講座、3×3ストリートバスケット大会、ふれあい動物園など多数出展。近隣小学校や町会にチラシ4,250枚を配布し、子どもからシニア世代まで幅広い層を集客。地域のコミュニティとして公園の魅力を広めることができた。



約3,000人来場

子どもが力士と真剣勝負



寄せ植えは大人に人気



地域と共に築く防災・安心のネットワーク

防災
事業

Update 地域防災を中心に活発な意見交換

区、警察署、消防署、自治会等とパークミーティングを開催。周辺地区での防犯・防災情報の共有、高台化工事の進捗について説明し、課題を共有。**地域連携防災訓練の継続実施の重要性を確認**し、2月の地域連携防災訓練実施に向けて連携を強化した。



5団体、17町会、23名が出席



会議終了後も活発に意見交換

Update 地域力を結集した防災訓練

公園を一時避難場所とする町会や自治会、消防・警察等と連携して実施。防災スタンプラリーで参加を促し、実践的な訓練を行い、非常食等を配布し、備えの重要性を伝えた。**パークミーティングでの連携が効果的に働き、地域が一体となり、防災力向上に繋がった。**



参加者数 約150人

参加者全員でAED使用方法を習得



煙体験で防災時に備える

安全で快適な野球場環境の実現

Update 野球場の施設管理

江戸川区少年野球場の防球フェンスに接する公園樹木23本を、区と調整し、利用者に支障がない日時で剪定。株物は、観戦しやすさを考慮し、刈り込みの高さを低く抑えた。観戦環境が改善され、利用者からの好評を得た。さらに、その他の野球場についても**年間を通じて、内野の不陸整正やベンチの補修等**を適切に行い、**施設の劣化を防止**。利用者の快適性と安全性が向上した。



Before



After

水はけが改善され利用者から感謝の声が寄せられている

新たなビュースポットに！和風広場景観創出

Update 新たに息を吹きこまれた「灯籠」

高台化工事に伴い、遊具が和風広場に移設されるのを前に、灯籠の塗装や銅板の張替、空堀の修繕を実施した。公園を象徴するエリアとして、昼間は鮮やかで美しい印象を与え、夜間は灯りが温かみを感じさせるようになった。また塗装により耐久性が向上し、風雨にも耐え、**長期間美しい景観を来園者に提供**した。



Before



After

利用者ニーズに対応

Update 55箇所の飛地管理

近隣に住宅が多く、剪定や落葉清掃等の**要望が年間50件以上発生**。**地域住民とコミュニケーションを取り、苦情に発展することなく円滑に対応**。また、白杖使用者や近隣施設利用者の通行頻度が高い園路の舗装不陸補修77㎡、側溝コンクリート蓋交換14枚を実施し、足元の安全性を向上。





葛西臨海公園

人と文化と生きものが集い
新たな魅力をつくる公園



所在地：江戸川区／開園面積：77.85ha

鳥類園 ウォッチングセンターリニューアルと開園30周年記念事業

Update 鳥類園で輝く“子どもたちの目”

夏休みや冬休み期間に延53日間、子どもたちに人気の高い「ひみつきち」を開催。専門スタッフによる「虫さがし探検ツアー」や新企画「夜の昆虫観察会」など、自然に触れる機会を増やすことで、子どもたちが自然の豊かさを学んだ。また、**市民参加型水生昆虫調査「水辺の生きもの探し」、希少鳥類の繁殖を目的とした竹林整備**などを通じて、楽しみながら生物多様性保全の学びを提供した。



鳥類園ひみつきち
参加者 1,893人(前年比268%)

夏休みには昆虫探しや自由研究のお手伝いも



鳥類園開園30周年「いきものまつり」
来場者約4,000人

アニバーサリーヤーを多くのファンと共に祝福



4人の研究者によるトークショー
計4回 参加者356人

子どもも大人も研究結果を熱心に聴講

NEW 展示室全面リニューアル

鳥類園のビジターセンターを目指し、四季の見どころや希少種情報をパネル掲出、魚類などの生態展示や鳥類の剥製展示、多世代で学べるハンズオン展示など**充実を図った**。また生態や環境を学べる書架を配したキッズコーナーも設け、「展示が工夫されていて面白かった」等と**好評である**。



土日来場数 約1,770人/月 Before 約2,870人/月 162%UP After

鳥類園を深く楽しく知れるようになり、地元小中学校から環境学習の来訪も

NEW 絶滅危惧種「ヒクイナ」AI技術を使用した調査へ



東京都市大学などとの合同で、センサーカメラ設置により、生態調査を行ってきた「ヒクイナ」について、**AI技術を使用しデータ判別の自動化・効率化を図り、個体識別の迅速化ができた**。

AI学習用の基礎データとなるヒクイナの写真を市民から一般募集。全国の野鳥愛好家194人から1,249枚の提供協力を得て実現できた。



「ヒクイナ企画展」も開催し、情報を発信



多彩な自主事業 地元と連携した地域価値の向上を目指して

Update ART Marché in KASAI Seaside-Park

地域で活躍する団体と協働し、「伝統・文化・芸術・地域」をテーマにアートマルシェを開催。**年3回と開催日を増やし**、アーティストや、地域の障がい者支援施設の生産品販売、江戸川区商店街連合会からの出店で新たな賑わいを創出した。



総来場者数 約9,600人



Update PARK CINEMA FESTIVAL in 葛西臨海公園

障がいのある方や、その家族に映画を楽しんでもらおうと、**地元法人会や区と実行委員会を立上げ「野外シネマ」を5月に開催**。日中は防災体験や子ども縁日、夜は「スーパーマリオ」を上映し、**前年の500人を大きく上回る方々が映画を楽しんだ**。



来場者数 約11,000人



映画鑑賞者数 約6,000人

Update 秋の公園フェスティバル

満開のコスモスを背景に、子どもたちに人気の高いポニーの乗馬や、公園の木の実でつくる工作教室、いきもの観察などを**楽しめるイベントを地元区関連団体と連携し11月に開催した**。誰でも気軽に参加できるイベントに、多くの家族連れで賑わった。



来場者数 延1,608人



多様な参加者との訓練で備える 防災力

防災事業

Update 公園の防災機能を体験から学ぶ

近隣11町会や障がい者福祉施設のほか、水族園との防災訓練を延200人と実施。また、5月には近隣小学校と阪神大震災由来のひまわりの種「はるかのひまわり」を播種した**花壇づくりと、「防災授業」を実施**。多様な団体と訓練を重ね地域の防災力向上を図るとともに、発災時に被災者を救助する、職員の対応力向上につながった。



地域連携防災訓練

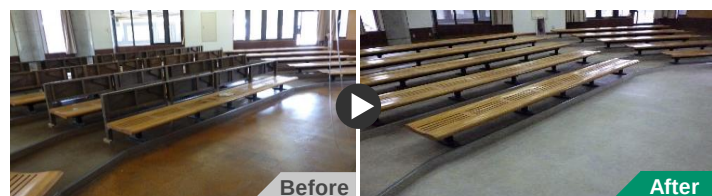


ユニバーサルチャレンジ防災訓練

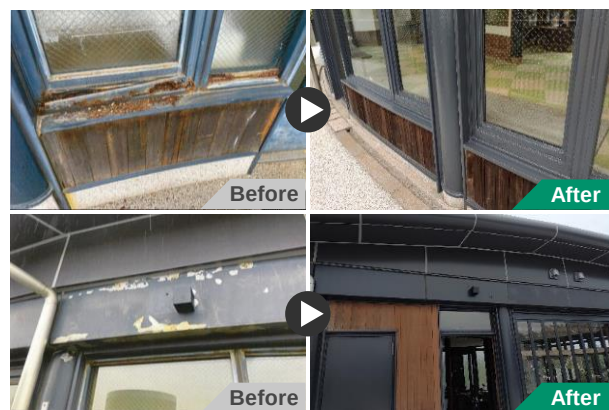
施設の活性化と長寿命化を目指した補修

NEW 鳥類園ウォッチングセンターの改修

都工事が終了し、再開放となる鳥類園ウォッチングセンターが、環境学習の拠点となるよう、付属するレクチャールームを改修した。また、経年劣化が目立つ窓枠や壁面、手摺等もケレン作業と耐塩塗装で長寿命化を図った。



レクチャールームは、床・壁の張替えを中心に気持ち良く学習できる環境に



建物屋外も潮風に負けない耐塩塗装に



武蔵野中央公園

小さな手・大きな手 みんなで育てる
花壇と歴史のある原っぱ公園



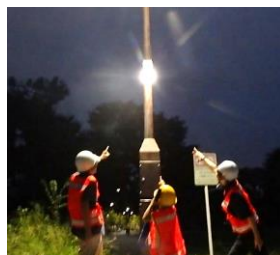
所在地：武蔵野市／開園面積：11.24ha

防災イベントに新たな取組続々、防災公園をPR

防災
事業

Update 地域意見を反映し、設備点検に一般来園者が初参加

パークミーティングでの「防災公園の施設をもっと知りたい」という意見に応え、従来、職員だけで行っていた**設備点検などに一般来園者の参加を募る取組を、年間を通して初めて開催**。防災パーゴラの屋根の設置など4回の取組に参加してもらい「(パーゴラは)シートを掛けると部屋になるのを初めて知った」「自販機に災害対応機能があるのを初めて知った。」等の反響を受け、防災公園普及の機会を更に充実できた。Kids防災イベントでは、災害時の持ち出し品を自分で選ぶ防災ボトル作りなどを実施。「自分で必要なものを選ぶ力を身につけられた」などの感想があり、防災意識の向上に寄与した。



(左)防災パーゴラ設営、(中)災害ベンダー稼働、(右)夜間防災設備点検

Kids防災(防災ボトル作り)

NEW 防災Dayキャンプ初開催

パークミーティングでの意見と、**ニーズ調査**を踏まえ「キャンプ」に防災の要素を取り入れた「防災Dayキャンプ」を3月に初開催。トイレの重要性の説明や家でできる簡易トイレ作り、ビニール袋の湯煎のできる食事作りなど、防災の知識を消防署などと協力し、体験しながら学んだ。



(上)トイレを組み立て
(右)防災レシピ



Update 水防・防災フェスタ2024

例年8月に開催してきたが熱中症を考慮し自治体、消防などと調整し、**気候の良い5月に繰り上げて開催**。**かまどベンチ**を使用した火熾し、**職員が考案した防災炊飯**を初めて実施。待ち時間には防災すごろくで楽しみながら防災意識を高めた。



火を熾して炊飯や焼きマシュマロ作り

発生材を活用したユニバーサル遊具「モルック」 公園の楽しみ方の新たな提供

NEW 新規導入のモルック、遊び方動画をエリア内に横展開し拡大

性別や年齢などを問わず遊べるユニバーサル遊具であるモルックを**剪定で出た発生材で手作りして貸出**。お正月の公園利用に合わせて**遊び方の動画**を制作してYouTubeで公開し、公園での楽しみ方の1つを新たに提供した。



発生材を活用した手作りモルック



遊び方動画の一例



地元企業、教育機関、ボランティア等と連携した、ガーデニングショー

Update フラワーショップ倍増、花々の展示で公園の魅力向上、イベント実施後の満足度177%UP

- イベント準備として園内花壇への植付などを、一般来園者のボランティアや、発達障害のある子ども達、ガーデンサポーターとの協働で行った。毎年好評のワークショップは、近隣フラワーショップに交渉して**昨年から2つ増やし、4つ開催したが予約枠がすぐに埋まる**ほど人気となるなど、利用者ニーズを踏まえたイベント開催ができた。来園者からは「**楽しい企画をありがとう!**」など**感謝の言葉**をいただいた。
- フラワーセラピストと巡る植物観察会は、植物を五感で感じる内容となるよう工夫し、公園の新たな魅力に気付いてもらうことができた。



クリスマススワッグ作りをする親子



寄せ植え作りにご夫婦で参加



植物観察会の1コマ。落ち葉の香、分るかな

快適な公園設備の維持・管理

NEW 今後を見据えたインフラ整備

漏水修理に際し、給水管の主経路に**止水弁を1箇所から5箇所に増設**、今後の事故等早期発見や利用者への影響の最小限化が可能となった。



漏水対応



止水弁増設

Update 遊具広場のアップデート

廃番のため部分補修ができなくなった滑り台を**新しい型式**のものに交換補修し、**長寿命化**。ゴムチップ舗装補修では、新たにマープルカラーを採用し、**安全かつ見た目にも楽しい**ようになった。



赤と黄色のマープルカラーのゴムチップ

Update ミストシャワー

昨年、テニスコート内のベンチに設置したミストシャワーの場所を更衣室前に変更、より多くの利用者が利用できるようになった。



ミストで涼むテニス利用者

NEW 犬のノーリード等の対応

飼い主マナーのクレームに対応し、マナーアップキャンペーンを**4回実施**。**オリジナルのパンフレットやペット防災に役立つ資料**を説明しながら配布し、資料は**他公園にも横展開**した。飼い主から「犬が嫌いな方もいるので気を付けます」などの感想があった。



(上)パンフレット (下)配布の様子

NEW 都工事への協力

石神井川調整池事業の準備工事が春から始まった。樹木工事や、土壌調査など、東京都、施工会社、関係各所と打ち合わせを行い、**利用者からの意見等を受け都へ伝える**など積極的に協力し、都事業の円滑な遂行と来園者の安全確保に寄与した。



根回し工事

映像資料を活用した歴史ガイドツアーの事後課題を改善～来年に向け最新技術導入

NEW 臨場感あふれる「ナレーション付ARコンテンツ」制作プロジェクト始動

4公園をめぐる歴史ガイドツアー実施に際し、戦争遺構のない当公園は、米国の記録写真や武蔵野市所有史料等現存する資料で映像を作成し専門家が解説、23人が参加し「こんな平穏な公園が昔軍需工場だったことを初めて知った」等の反響を得た。さらに、事後にはこれらのリソースを有効活用し、子ども達に公園の歴史を臨場感ある手法で伝えるべく関係者と調整を重ね、現存しない工場等を**3Dデータで再現する最新技術のコンテンツ**を来年度に向けて開発した。



新規コンテンツのイメージ



専門家による歴史の解説



府中の森公園

誰でも遊べる遊具と
子どもの笑顔であふれる公園



所在地：府中市／開園面積：17.14ha

もり公園「にじいろ広場」「府中の森フィールド」の活用により 子どもの遊び場を促進！

NEW 誰でも参加できる遊具体験会を春・秋に2回実施 「もぐもぐピクニック」&「あそび場リハ」

遊ぶだけでなく互いに話して情報交換する時間が欲しいという要望に応える遊具体験とランチが付いた「もぐもぐピクニック」を初開催。嚥下障がいのある利用者に、切ったり加工しないで食べられる**インクルーシブフードの弁当**を用意し提供。「遊具で遊んで木陰でご飯を食べて公園を100%楽しめた！」と喜んでいただいた。「あそび場リハ」は、リハビリテーションを専門とする**理学療法士**など、専門職のサポートスタッフを招いて開催。子どもたちの「成長」を実感できるよう工夫して、障がいを持つ子ども12人とその保護者に、楽しく身体を動かせる機会を提供できた。



もぐもぐピクニックの弁当を食べる参加者 (上) 弁当の一例



円盤ブランコで遊ぶ参加者



遊具連絡協議会の様子
誰でも遊べる遊具広場イベントについて、関係する17団体(26人)を招きパークミーティングを実施。今後の運営や課題について意見を求めた。

NEW アプリを活用した3周年イベントで施設PR

「にじいろ広場」リニューアルオープンから**3周年**を記念し「あきまつり」を開催。近隣の子供達よりオリジナルキャラクター「にじーな」の塗り絵を募集し、ガーランドにして広場の装飾をした。TOKYO PARKS PLAYアプリ「森公園にじいろ広場であそびゴ！」を活用し、子ども達は、スーパーボールすくい、的当てゲームなどを楽しんだ。

アプリ閲覧数
1,867人/11月
ガーランド
168枚



屋台に並ぶ親子



ガーランドで遊具広場を装飾

NEW 「みんながまんなか」スマイルサッカー体験会

本年、リニューアルオープンした「府中の森フィールド」では、未就学児および小学生を対象として、障がいの有無、経験の有無・性別・国籍を問わず、**誰もが思いっきり楽しめるサッカー体験会**を秋と冬の2回実施し、「自分にもサッカーができる！」と実感して頂いた。参加者には、サポーター基金で作成したリストバンドをプレゼントした。



1回目：20人
(内、障がい児童10人)
2回目：38人
(内、障がい児童21人)

サッカーを楽しむ子ども達(対象年齢を細分化し午前と午後で編成)



家族で楽しみながら防災について考えてもらえるプログラム

防災
事業

NEW 防災フェスタ12月実施 来場者1,000人に普及

次世代を担う子ども達に参加を呼び掛ける為、小中学校へチラシを配布。車両展示や起震車体験、**初めて府中刑務所に**声掛けし、職員による汁粉の炊き出しを実施。地域一帯で防災の普及啓発を行った。



協力：府中消防署朝日出張所、航空自衛隊府中基地、府中警察署、府中市、府中刑務所、近隣自治体、スポーツ団体、ボランティア団体等

NEW スポーツ競技形式で体を動かし ながら体感する防災プログラム

段ボールのキャタピラーウォーク等、**災害に役立つ4つの競技**を企画し提供。誰でも楽しめるニュースポーツ・ベースボール5日本代表選手を招き、全プログラムを体験した参加者に金メダルのタオルを授与した。



身近なもので担架作り毛布を活用して人形を運ぶ参加者



ベースボール5を体験する参加者
(下) 金メダラー例

NEW 要配慮者用の休憩スペースを完備した防災訓練

会議室に**入口スロープ**や**クッションマット**を常備し、発災時に備えている。要配慮者と家族に向けて、公園の防災施設を見学いただき、オムツ替え等に利用して頂けることを理解して頂けた。



防災施設を説明する
センター長



会議室の
要配慮者対応

利用者に声を届ける活動として広報力を拡大

NEW 各種マニュアルを整備し広く情報提供を行い、使いやすい公園を目指す！ 市の公共施設最大29箇所で広報可能

- 安心安全な施設利用の為、組立が難しいラグビー・ゴールポスト（大）の組立手順動画とマニュアルを作成し、誰でも閲覧できるように整備した。
- **府中市市民活動団体に登録**したことで、市民、自治会・町内会、NPO・ボランティア団体、学校、企業等さまざまな箇所へ公園情報を**恒常的に発信**できるようになり、告知を拡大した。
- 告知だけでなく、イベント実施後も公園ホームページで実施状況を報告し、公園の魅力を発信した。

(右) マニュアルを整備し
スポーツ施設前に設置



ラグビー・ゴールポスト組立手順動画

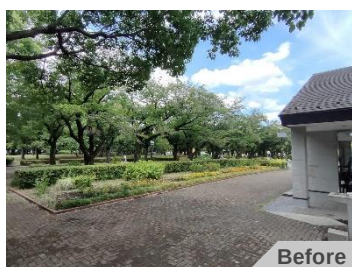


告知を見て集まった人々

利用者ニーズを捉えたくつろぎ空間の創出

NEW 見る花壇から使う花壇へ

売店および休憩スペースは、日頃から車椅子利用者を含め、土日には椅子テーブルが満席になるほど多くの来園者が利用している。これら利用者ニーズを捉え、売店前の花壇を車椅子でも入れるようにしたほか、椅子テーブルを新たに設置し、これまでの**見る花壇が利用する花壇**になり**植物に囲まれたくつろぎ空間が拡充**した。



Before



After

売店前の花壇が車椅子利用者が入ってくつろげる空間に



椅子テーブルでくつろぐ親子



武蔵野の森公園

風化させない歴史の保存と
細長い飛行機雲・高い空のある公園



所在地：府中市、調布市、三鷹市／開園面積：38.57ha

のびのび親子館から飛び出した「絵本と歌の庭」、新しい子育て支援の取組

NEW 未就学児が、生き物を育むプロセスに 直接触れる仕組みを実現

新規整備した「絵本と歌の庭」は、のびのび親子館に備えた絵本や童謡に出てくる生き物に実際に出会え、**子供たちに生物多様性の保全を学ぶ機会を提供**できる場所。庭の花壇を5エリア（子ども・チョウの幼虫・木の花・草の花・季節の花）に分け、子ども達によるヒマワリの種まき、苗植えを実施する等、**花壇づくりを地域の人々と共に作り、育んだ**。のびのび親子館では、連動したイベントを行い、年間を通して花壇と親子館が一体となった活動を展開した。



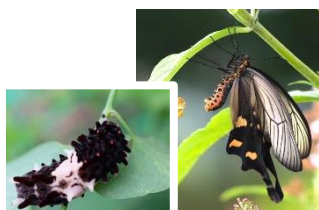
絵本と歌の庭全景



苗植えイベント



花の絵本読み聞かせ



孵化したジャコウアゲハと幼虫

NEW チョウの集まるガーデン、公園の新しい名所へ

チョウの集まる空間づくりとして、**吸蜜植物・食草を25種204株**植栽したことで、成虫を呼び寄せ、産卵、幼虫、成虫への成長を観察することができた。また地域に自生する**フジバカマ**を植栽し紹介する等、**生き物が共生する循環を生み出し**、生物多様性の啓発につなげることができた。その魅力は、のびのび親子館の子供たちに加え、昆虫好きの小学生親子、チョウの生態に惹かれた年配層をも取り込んで、公園の新しいチャームポイントとなった。

関連イベント・作業一覧表

のびのび親子館連動イベント			
イベント内容	日程	参加者	人数
読み聞かせ＋種播、苗植え	4/27,5/15,25	のびのび利用者	174
案内＋観察	7/27	一般来園者	10
案内＋クイズ	8/24	のびのび利用者	20
読み聞かせ＋観察	12/21	のびのび利用者	29
読み聞かせ＋クラフト	2/24	のびのび利用者	34

花壇整備・維持管理作業	
時期	作業内容
6月	チョウ向け植栽3回134株
7月	5エリア分け、イラスト看板設置
7月～9月	除草・剪定等4回、チョウ向け植栽2回70株
9/21	ボランティアによる整備作業
11月～12月	土壌改良・造成等2回、冬・春の花植栽2回252株

オリンピックレガシーを形に、「健康レガシーウォーキング」いよいよ本格始動

Update 関連各団体と連携し、誰もが参加して運動能力や健康を増進できるユニバーサルイベントに

「武蔵野の森オリンピックパラリンピックレガシーパーク」の構成メンバーである味の素スタジアムと連携して、昨年度設計したユニバーサルウォーキングコースを使い、**スタジアムと公園敷地内のピュースポットをスタンプラリー形式で巡る**レガシーウォーキングを2月に開催。

FC東京、東京都パラスポーツトレーニングセンター、味の素の各社・団体が協力し、サッカーチームの人気キャラクターが登場したり、パラスポーツの体験会も行い、雪予報で悪条件の天候にもかかわらず集まった55人の参加者がイベントを楽しんだ。（事前予約は104人）**オリンピック・パラリンピックレガシーパークの名称にふさわしい、ユニバーサルな組み立てとなり、今後の新しいスポーツイベントの核となるプログラムを構築できた。**



公園内ユニバーサルコースを歩く



人気のキャラクタードロンパも登場



「歴史ガイドツアー」で、地域コミュニティと連携、記録と記憶を次世代へ

NEW

地元自治体、歴史研究家と連携、充実の展示と解説

府中市ふるさと文化財課の協力で、市保管で調布飛行場由来の**旧陸軍機尾翼現物**を塗装や構造まで間近で観察できるよう展示、掩体壕を保存する会の歴史研究家が掩体壕とプロペラ展示をあわせて幅広い層に解説。さらに、飛行場跡地エリアの戦後の変遷経緯等も細かく伝えることにより、**地域価値の向上**が図れた。



100式司令部偵察機尾翼の展示



100式輸送機のプロペラ展示

NEW

小学生ファミリーを中心に幅広い世代から、高い関心と評価獲得、次世代へ歴史を伝承

8月の酷暑にもかかわらず72人が参加、「調布飛行場と深く関わる公園の歴史を丁寧に説明してもらいとても良かった」「尾翼の実物が見られて感動した」等、大きな手応えがあった。参加賞やコンプリート賞のシードペーパーも用意して、楽しみながら4公園を回ってもらい、夏休み中の**子どもたちや若い世代に歴史を伝達**できた。



普段は入れない掩体壕内部を案内



調布飛行場の歴史をパネルで解説

地域の文化・伝統をつなぐ「むさ森フェスタ」、国立天文台と初連携で「天体観望会」

Update

八王子車人形、和太鼓競演で地域の後押し

国の重要無形文化財「八王子車人形」の演目、地域の和太鼓チームが結集する「和太鼓ステージ」、新しいユニバーサルスポーツ「モルック」も導入して、1月実施。**次世代への伝統・文化の継承と地域の活性化を**拡充、700人が楽しんだ。



和太鼓オンステージ



八王子車人形

NEW

広大な大芝生広場は天体観測のメッカ

360度の眺望が開ける大芝生広場は、天体ファンのWebサイト等で「**都内有数の天文観測好適地**」として知られている。三鷹で100周年を迎える**国立天文台との連携**により、地域の普及サークルとのコラボを実現、むさ森フェスタ第2部として天体観望会を2月に**初開催**、公園利用の天文ファン33人が体験した。



大型天体望遠鏡に興奮

広がり続ける防災連携の輪

防災
事業

NEW

東京外大の留学生に向けた初訓練

近隣東京外国語大学等に働きかけ、災害弱者となりうる外国人学生を、地元朝日町会との連携で町の総合防災訓練に招き、不慣れな地震体験など**外国人に対する防災啓発機会を創出**した。またその他の地域連携として、府中・調布・三鷹3市の防災訓練、特別支援学校けやきの森学園総合防災訓練に継続参加、近隣企業、機動班との合同訓練も実施した。



発災時対応が分からず立ったまま起震車にたたずむ外国人



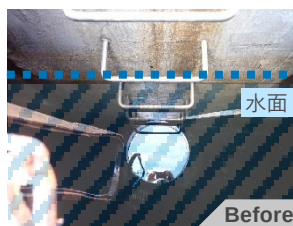
初実施の機動班合同訓練に39人参加

防災施設の機能維持

Update

防災トイレのピットのメンテナンス

園内6か所の防災マンホールトイレピットに溜まっていた雨水などをすべて排水した。また、ピット内の点検を実施し、ピット内に侵入した植物の根について、生長によりピットを破損する恐れがあるため、すべての根を除去しトイレピットのメンテナンスを完了させた。**発災時に備え、防災施設の機能が維持され、災害対応力が向上した。**



雨水が溜まっていたピット



排水によりピット機能を維持



小金井公園

まちと人と自然をつなぐ
武蔵野の大公園



所在地：小金井市、小平市、西東京市、武蔵野市
／開園面積：80.49ha

市民の想いと企業との協力で紡ぐ ～50年目の新たな汽笛～ 「小金井公園SLフェスタ」



NEW

公園資源であるSL展示場の開場50周年に向け、そのポテンシャルを開拓・発揮！

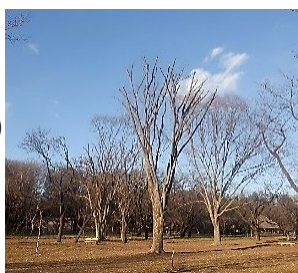
- 地元住民有志を中心とするSL清掃活動が発展し、ボランティア団体「汽車の会」が発足した。**活動が安定するようサービスセンターがボランティアとしての組織づくりや活動マナー、会議のファシリテーション等をサポート**しながら、清掃活動のほか、SL展示場開設50周年に向けたイベントの企画立案、開催で協働した。
- 鉄道の日（10月14日）に、通常は入れない客車の特別公開を目玉とするイベントを開催した。記念ヘッドマークの掲出や解説パネル展示なども行い400人に楽しんでいただいた。
- 3月2日に**大型イベント「小金井公園SLフェスタ 祝！展示50周年」**を開催した。本物のような発煙で演出したほか、JR武蔵小金井駅・東小金井駅ブースや地元事業者のワークショップ、オリジナルグッズ製作等、様々な連携による充実したコンテンツで**3,000人が来場**した。また、**50年前の「SL保存会」設立メンバー（故人）の家族が来場し、職員・ボランティアと交流**する等小金井公園のポテンシャルを発揮する新たな魅力を創出した。

東京都とボランティア団体と連携して進める、サクラの名所を美しい姿で未来へ継承するための取組

Update

サクラの健全な育成を促す日照づくり

「桜の園」におけるケヤキやトウカエデの樹高が高くなり、サクラへの日照不足が発生しているため、**ボランティア「桜守の会」と検討を図るとともに東京都の指導を仰いで剪定し、日照を回復**させることで、適切なサクラの生育環境を整備した。



Update

苗場で育成したサクラの後継木の補植

サクラの苗場では**江戸時代から伝わる貴重なサクラの台木**（大島桜、玉川上水山桜、江戸彼岸等）に接ぎ木して育成している。今年度はその内**11種類28本の苗木を、東京都及び桜守の会とともに適切な場所を定めて補植**し、サクラの景観づくりが進んだ。





大径木化、老木化が進む樹木の安全確保

Update 高い技術と機動力で高木を剪定し落枝を防止

樹木の太径木化や老木化が課題である中、**維持管理職員によるきめ細かな樹木点検、高所作業車を駆使した機動的な剪定**により樹木の安全を確保した（400本剪定）。日野市での落枝事故発生後は緊急樹木点検を実施し、イチチョウ、ケヤキを中心に念入りな剪定を行い、落枝事故を防止した。



豪雨に備える雨水貯留浸透施設の管理

防災
事業

Update 「見えない貯水池」全95基の浸透樹を徹底清掃

園内3か所の広大な広場にある通称「見えない貯水池」は、大雨の後、石神井川に雨水が急激に流入しないよう、広場を用いて雨水を緩やかに地中に浸透させる施設である。その機能を発揮させるためには維持管理が重要であり、**95基全ての浸透樹を清掃し、激甚化する気象災害に備えた。**



みんなの「したい！」を叶える。対話から生まれるこれからの公園の活かし方「パークミーティング」

NEW 「青空コンサートをしたい！」

周辺地域の観光振興団体等に足を運び新たな連携に向けて売り込みを行った。**西東京市文化芸術振興会との交流**を通して、地元の音楽家が「コスモスまつり」に出演し、イベントの魅力アップにつながった。



NEW 「スポーツの楽しさを伝えたい！」

東京学芸大学との企画検討により、学生が子どもたちにスポーツの楽しさを伝えるイベントを開催した。将来の教育者を目指す学生に「教える」「伝える」経験を積む機会を提供した。



NEW 「子育て支援の輪を広げたい！」

小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会との対話により、その活動をサポートを申し出た。サービスセンターに『こどもじょうほうコーナー』を設置し、地元の遊び場や安全な居場所等の情報を提供した。



「防災フェスタ」連携の輪が拡大

防災
事業

Update 官民一体で巨大地震に備える

新たに地域の企業2社と病院2団体、学校1校が参画した（計14社等）。来場者に応急手当や防災設備の組立訓練等を体験してもらい、防災公園としての普及啓発を果たし、6,000人の来場者を記録した。



造園技術者の育成に貢献

Update ベテラン職員がノウハウを伝授

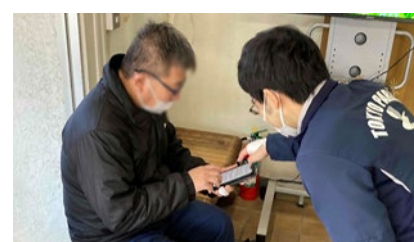
園芸専門学校の実習生を受け入れ、文化財庭園での経験を持つベテランの農園芸職員が指導を行い、**学校では得られない実務経験やスキル習得の機会を提供し、未来の造園技術者の育成に貢献した。**



利用者にやさしいデジタル化推進

NEW スマートな手続き、温かな支援

スポーツ施設予約やドッグラン利用登録のデジタル化が進み利便性が著しく向上した。一方、デジタル操作に慣れない方々もあり、**職員がひとりひとりに寄り添ったご案内を時間をかけて行いデジタルデバイドを解消した。**





東村山中央公園

世代を超えた住民参加と
人々のふれあいを大切にする公園



所在地：東村山市／開園面積：12.10ha

年間を通じた子育てにやさしい公園づくりで「やさしい大賞」受賞

Update 四季折々、多様な切り口で子ども向けコンテンツを充実

- 秋の運動会シーズンに合わせ小学生を対象に、専門家講師による速く走するための方法を学ぶ「かけっこ教室」を開催。
- 花壇管理や花摘み体験などの「気ままにボランティア」では、**自然観察指導員**の資格を持った専門家を招致して、花苗の植付体験や花摘み体験と同時に生きものの保全についても学んだ。
- ナラ枯れの対策**を子ども達と考え、**後継木育成**を一緒に行う「どんぐりを育てよう」を企画し、11月に、どんぐり実生に取組んだ。
- 春に、新規の親子ブランコを1台導入し、適切な管理と利用調整にも努めた。



大人気のかけっこ教室



ヒマワリ花摘み体験



どんぐりポット作り



(上) 親子ブランコ
(下) 立ち乗りする子ども達が多発したので注意喚起した利用調整の掲示一例

NEW やさしい大賞受賞

様々な取組が評価され、子育て中の方をはじめとする**市民が投票**する「東村山市子育てにやさしい大賞」において、総合1位「大賞」を受賞した。



受賞のセンター長と表彰状

地域と紡ぐ園芸文化の継承

Update 第23回 菊花展

公園ボランティア「小菊の会」の会員が仕立てた小菊盆栽・大菊を展示し、来園者に**江戸園芸の伝統文化**である小菊盆栽、大菊、盆景を親しんでもらう「菊花展」を10月に開催。「市長賞」に加え、「直幹」など仕立てごとの**8つの賞**を用意し、日本の秋の風物詩であるキクの魅力を楽しんで頂いた。



表彰式の様子



来場者1,200人

会員が丹精込めて仕上げた多彩な作品

アニメ聖地の普及啓発

NEW 作品に登場する公園地をマップで紹介

アニメ『女子高生の無駄づかい』を通じて、公園内のスポットを巡るマップを新規に制作して配布。近隣施設とともに普及啓発することで、作品のファンを含め、地域振興と**地元への愛着を醸成**した。



配布マップ



利用者高校生へ配布



パークミーティングから派生 防災と健康をテーマに防災啓発活動

防災
事業

NEW 人の輪から たのしさはじまる シニア向け防災訓練 「わたしとみんなの介護予防大作戦」 8団体・160人が参加

パークミーティングでの意見を反映し、引きこもりがちな高齢者に向けた「介護予防大作戦in 東村山」として、**シニアへの健康づくりにウォーキングと防災関連のメニューを追加**して火災や災害への対応意識を高めてもらう**地域開発プログラムを市と企画**した。東村山中央公園の防災機能と防災トイレの解説をはじめ、東村山消防による家具転倒対策の講演や、諸訓練、八坂水道局による応急給水訓練等を実施し、近隣シニア層に広く普及啓発できた。



介護大作戦



応急給水の知識とスキル周知



防災トイレ機能と役割を解説

NEW 「もしも」に備えた 地域連携防災訓練

東村山市、東村山消防署、東京都水道局、東村山警察署、自衛隊等と共に近隣7つの自治会と**新たに社会福祉法人1団体**を迎えて、地域と連携して広域的な被害を想定した実動訓練ができ、支援が必要な方への共助の意識付けができた。



ハザードマップにて、とるべき行動を解説

利用者ニーズに応える管理ヤード活用

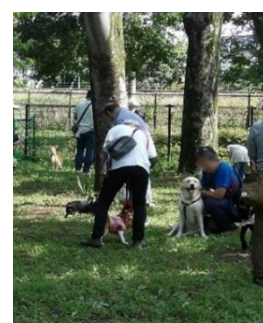
NEW 住民要望「犬のノーリード利用」を実現

犬連れの住民からの長年の要望に対し、都や要望者との調整を何度も重ね、フェンスに囲まれた管理ヤードの特性を活かして、犬のノーリード利用ができる環境を整備した。

仮設フェンスを用いて管理ヤード内の発生材置きスペースとの区分けを明確化、犬の急な飛び出し防止のため2重扉や、小型犬の避難や相性確認用のスペースも設置、さらに犬の水飲みや衛生管理を踏まえ水栓パンを設置するなど、**安心安全のための様々な細かい工夫**をし、利用者から好評を得た。



仮設フェンスなどの設置状況



犬連れが賑わうヤード

NEW 普段できないことをイベントで、ボランティア団体と協働で実現

普段開放広場ではできないプログラムを検討し、夏休み・冬休み中の近隣児童を対象に、ストラックアウト体験などを開催した。また、**近隣のシニア団体と協働**開催した正月遊びでは、コマ回し・羽根つき・ペーゴマなど昔の遊びを高齢者に教えてもらうことで、**世代間交流の場を提供**することができた。



コマを回して世代を超えて
笑顔溢れる正月遊び



普段公園ではできない
思い切った投球に大興奮

排水設備機能の維持

NEW 排水設備の重点メンテナンスで排水改善

中央広場西側のケヤキの根元に近い排水設備は根が侵入しやすく、排水不良が発生しやすいため、侵入した根の除去や高圧洗浄等を行った。これにより**排水能力が改善**し、園路の水たまりの発生を軽減することができた。



根の除去作業



東大和南公園

歴史を学び
若い世代に伝承する公園



所在地：東大和市／開園面積：9.87ha

公園とまち、人をつなぐ取組推進。住民提案取入、課題共有、コミュニティ育成も。

Update 地域愛を凝縮「みなみこうえん祭」で、3,000人が一つの輪に

昨年のパリ五輪をきっかけに潮流をとらえた「ブレイキン」は、子どもたちのコミュニティ育成をサポートし、地元のブレイクダンサーたちが一堂に集まって熱いバトルを展開、ブレイキン競技のメッカを目指す公園として、新たな魅力を発信することができた。

10月開催、地元愛溢れるステージは8エントリー、クラフトや縁日などのプログラムに加え、新たにキッズダンス3チームによるストリートダンスショー、参加者全員による「東大和音頭」で一つの輪に！13団体150人の協力者との一体感で地域の交流活性化が一段と進んだ。



「ブレイキン」トップダンサーもキッズも競演！



来場者全員が東大和音頭で一つの輪に

Update 街歩きスタンプラリーアプリ開発によるDX化

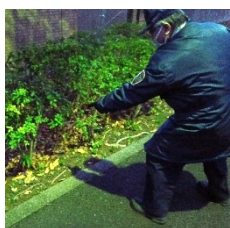
地元の名所や公園周辺の自然観察ポイントを厳選してめぐる、大人気オリジナルスタンプラリーを、みなみこうえん祭で行った「参加者おすすめスポットアンケート」から新たに3か所を追加してバージョンアップ、地域のみんなで作る街歩きアプリとして開発した。



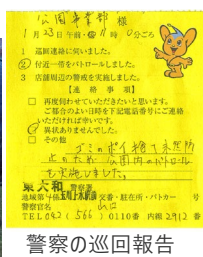
地域の人気スポットを取り入れた街歩きアプリ

NEW ゴミ不法投棄に共同対応

ここ数年で顕著化してきた、家庭ゴミの不法投棄について公園情報連絡会で情報共有し、「状況調査表」を作成し東大和警察署に提出。その後委託警備会社、市民体育館と連携し夜間・早朝合同パトロールを実施、警察も巡回強化する等、地域ぐるみの協力体制を構築し公園利用適正化の進展に努めた。



関係者夜間合同パトロール



警察の巡回報告

Update パークミーティング拡大！地域の課題共有

9月、昨年より1団体増の15団体18人が参加。みなみこうえん祭協力依頼、スタンプラリーポイントやゴミ不法投棄について検討のほか、防災トイレ鍵の貸与については、正しく安全な運用を前提に、次回の地域連携防災訓練で、マンホールトイレ設置訓練を実施することに導く等、様々な投げかけと調整を行い、成果につなげた。



15団体18人が参集



ゴミ不法投棄の状況記録を共有

Update 子育て支援の取組「リトルキッズコミュニティ」活性化

地元保育園と協働で、体を動かす遊びや、工作体験、栄養士による食育講義等幅広いプログラムを展開、昨年度1回から今年度5回開催にスケールアップ。面識のない親子と一緒に遊ぶ姿や、子育ての苦労話や心配事を共有する姿も見られ、地域の子育て家庭のコミュニケーション醸成と、育児不安の低減に繋げることができた。



初対面の親子が打ち解け、一緒に工作体験



戦争遺跡のある4公園で連携する「歴史ガイドツアー」を主導

NEW

子ども達の憩いの場である公園の歴史をわかりやすく解説した資料を準備

各公園に関わる歴史研究家や有識者を集めたりリモート会議を4回行う等の準備を主導し企画を構築。多摩地域広域の戦争の爪痕や時代背景が多角的に分かる**オリジナルテキストを有識者の監修のもとで作成**し配布、戦争について正しく理解し考える機会を提供し、他公園へも展開した。



多摩エリアの歴史に関するテキスト

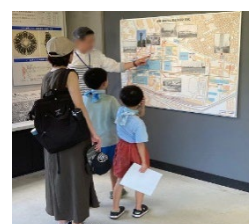


4公園の歴史資料を取り揃え

NEW

ボランティア団体、歴史研究家と協働して、公園の歴史を子ども達に伝承

学校、図書館、モノレール全駅などで広く告知し、終戦の日前後の8月実施で、120人が参加。戦災変電所を保存する会の協力で「平和と公正をすべての人へ」をテーマに解説し、「戦争遺跡の過去と今について、立体的に分かって良かった」「戦争の記録をこれからも残していかなければいけないと思った。」など、深い手応えがあった。



戦災変電所を保存する会による、丁寧でわかりやすい解説

要支援者、ペット、子供と、対象を広げる防災普及イベント

防災事業

NEW

キッズ防災デーで、がれきの中を車いす体験

近隣ファミリー層を中心に約300人が参加して2月に、子ども向け防災ゲーム・ワークショップを開催した。参加者は、防災クイズ等、楽しみながら防災を学び、要支援者向け訓練として社会福祉協議会の協力により、**車いす体験**を行った。



障害物の中を車いす体験 クイズに熱中

NEW

初のペット防災セミナーに高い関心集まる

ペット連れの利用者20人を対象に、避難について心得や対応を啓発し、初対面の犬同士の挨拶方法や、クレートトレーニング、悪路歩行も体験。熱心な質問タイムが20分以上も続いた。



ペットとクレートトレーニング

テニスコート沈下の迅速丁寧な対応

NEW

早期修復と利用者対応で事故・クレームゼロ

テニスコートの一部で不等沈下が発生。徐々に沈下した変化を速やかにとらえ、サウンディング調査および掘削の結果、地下2～4mに大量の**埋設物を発見し、撤去**することで完全修復。この間、約3か月にわたり使用不可となり、**コート予約者約70人に電話連絡**、工事状況は逐次HP、X、窓口で掲示する等**きめ細やかな対応**を行ってクレームや事故を防ぎ、円滑な運営を継続した。



沈下の原因となった埋設物



修復後の沈下箇所

都の工事への協力

Update

利用者目線での連絡調整

運動広場改修工事に先立ち、利用状況の調査を行い、定期的に利用している**31団体**に工事期間や期間中利用中止について直接、細やかに情報提供した他、園内にも掲示看板を設置する等、利用者目線の対応を行ったことで、利用者トラブルはなく、円滑な工事進行に寄与した。



運動広場での工事案内掲示



秋留台公園

大輪のバラを愛でる
花とスポーツで賑わい豊かな公園



所在地：あきる野市／開園面積：11.84ha

公園の賑わい創出 「ローズフェスタ2024春・秋」

NEW 広報強化 近隣5駅へポスター掲示

ローズフェスタ実施前にSNSのインサイト分析を行い、広報の打ち方を検討し強化を図った。秋川渓谷観光連絡会がJR武蔵境駅で開催した「観光キャラバン」に参加し、チラシ1,000枚を配布。更に、あきる野市の後援のもと、JR八王子支社と調整、拝島駅（初）や、東秋留、秋川など近隣5駅にポスターやチラシを配布した。当日のアンケートでも駅ポスターでのPR方法が有効だったことが確認できた。



観光キャラバンの様子



JR近隣駅での掲出一例

NEW 音楽の力で人々に元気と勇気と平和を！

公園のバラ園が一望できる西側に特設会場を設け、近隣高校生による合唱や吹奏楽のライブコンサートに加えて、今回初めて、あきる野市に縁があり、全国で活躍しているプロのアーティスト（ミュージシャン、ゴスペルシンガー等）を招致し、自然や環境、平和をコンセプトにした「オクトーバー・ローズ・コンサート」を10月に開催しフェスタを盛り上げ、迫力のある生演奏を参加者に届けることができた。

来場者
16,931人



オクトーバー・ローズ・コンサートin秋留台公園の様子

障がいのある方もない方も一緒にスポーツを楽しもう！「ユニバーサルスポーツ祭2024」

NEW 実行委員会5回、ボランティアスタッフ120人、地域の力を結集 前年度より20%増の参加者

- 陸上競技場が3種公認更新の改修工事中となるため、計5回の実行委員で安心安全にイベント実施できる代替会場を検討。協会の車いす利用職員も実行委員のメンバーに参加する等、利用者目線で検証し、ユニバーサルマラソンのコースは噴水広場利用とした。
- 実行委員会、近隣中高校生等のボランティア120人の協力もあり6月に「ユニバーサルスポーツ祭」を実施では、円滑なイベント運営ができた。より深い参画希望の声も上がり、地域連携強化に向けてさらに期待が膨らむ結果となった。
- プログラム内容をブラッシュアップし、障がいの有無を超え、多くの人々が一緒に楽しむ機会を提供することで、地域の一体感や共助意識の醸成に貢献できた。



(上) 表彰式
(左) 車いすマラソン



次年度開催アンケート



気合十分で集合写真



地域の真ん中で、みんなをつなぎ続けた防災活動、大きく結実

防災
事業

NEW 継続的地域連携が評価 「東京消防庁表彰」受領

防災公園として、近隣幼稚園保育園、中高校や自治会へ積極的に働きかけ、消防団連携、積極的なドクターヘリ受入など、地域のハブ機能としての取組を継続したことが大きく評価され、11月に「東京消防庁防災部長表彰」を受けた。



秋川消防署長からの表彰

Update 「災害時のユニバーサルマナーと配慮」 地域の叡智を集めて公園から発信

昨年、避難場所と避難所を繋ぐ取組として実施した「ユニバーサル防災訓練」をアップデート、11月に地域の発達支援施設等15団体の協力を得て、要配慮者を助けるための「災害時のユニバーサルマナーと配慮」をとりまとめた。訓練当日には高校生や自治会の参加者とディスカッションを行うなど、障がい者を介助する立場の健常者が、災害時に有効に動けるための訓練として組み立てた結果、参加者からは大変有意義で実効性のある内容だったと高い評価を受けた。



看板のイメージ



近隣避難所で高校生や自治会の方々と防災ユニバーサルマナー授業

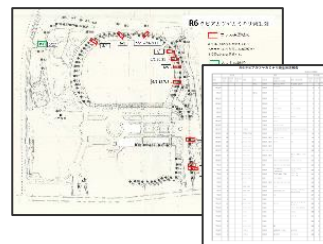
特定外来生物クビアカツヤカミキリ防除の取り組み

Update 継続した取組で被害本数大幅減少

クビアカツヤカミキリの被害がある野市内は特に顕著で、秋留台公園もここ数年、発見および被害が増えていたため、点検や、捕殺、フラスが確認された樹木のネット巻き等を継続実施したほか、昨年度に効果が見られた薬剤散布を時期を早めて125本に対し散布した。これらの取組により、新たな被害本数が10本となり、昨年度の55本から大幅に減少した。これまで地道に対応してきたことが、被害縮小につながり、地域の生物多様性保全の一助となった。



被害拡大を防ぐネット巻き



発生状況を日々記録

公園資源を活かして呼びかけたイベントが大人気！

Update ウルトラマラソン世界チャン プと陸上競技場で走ろう

8月に、100kmを走るウルトラマラソン金メダリストのコモディイダ所属岡山春紀選手を招いてランニング教室を開催。一般のランナー、地元高校生など多数の参加者が、世界チャンプのスピードを体験できる非日常を大いに楽しんだ。



JAPANのユニフォームの岡山選手と高校生たち

Update 5,000個のセミのぬげがら を21カ所で展示

大人気！公園で見られる6種のセミの展示を通して、5,463個もの抜け殻を毎日たくさんの子供たちが集めに訪れた。エリアをまたいだ21公園に横連携を拡大し、収集数コンクールを実施し、SNSでも発信した。



セミの抜け殻展示は子供たちに大人気

都工事への協力

Update 競技場・バリアフリー工事 へのこまめな提案＆調整

5年に一度の陸上競技場三種公認に伴う改修工事に先立ち、園内閉鎖や侵入経路設定、ユニバーサルトイレ仕様など設計面への提案から、利用者との調整や苦情対応など管理面への提案まで、他公園での経験を踏まえた様々なサポートを行った。



工事の様子